

組織階層情報メンテナンスツール ガイド

第七版 2021 年 3 月 10 日

株式会社 ビービーシステム

Copyright (c) 2018, Big Bang System Corporation. All rights reserved.

本書に記載された事項で発生したいかなる事態もその責務を負いません。また、本書は作成日時点での情報をもとに記述しています。(株)ビービーシステムは予告なく本書の内容を変更する事があります。

その他、本書に記載されているサービス名、製品名または会社名は、各社の商標または登録商標です。本書では TM マーク、R マークは明記していません。

目次

はじめに.....	1
1. 機能紹介.....	2
2. 準備.....	3
2.1 システム条件.....	3
3. 導入.....	4
3.1 インストール.....	4
3.2 メンテナンスツールの起動.....	6
3.3 初期設定	7
4. メンテナンスツールの使い方.....	8
4.1 部署に関する機能	8
4.1.1 新規作成.....	8
4.1.2 移動	9
4.1.3 コピー.....	10
4.1.4 変更	11
4.1.5 削除	13
4.2 アドレスに関する機能.....	14
4.2.1 新規作成.....	14
4.2.2 異動(移動).....	16
4.2.3 兼任(コピー).....	17
4.2.4 変更	18
4.2.5 この部署より削除.....	19
4.2.6 完全削除.....	20
4.2.7 検索	21
4.3 CSV に関する機能	23
4.3.1 アドレス帳 CSV インポート.....	23
4.3.2 アドレス帳 CSV エクスポート	24
4.3.3 コマンド実行	26
4.3.4 高速版コマンド実行.....	33
4.3.5 ログ出力.....	38
4.4 カスタム項目に関する機能.....	39
4.4.1 項目名の設定	39
4.4.2 データ一括削除	40
4.4.3 アドレス帳の表示項目	41
4.5 複数アドレス帳に関する機能	44
4.5.1 アドレス帳の設定.....	44

4.5.2	新規作成.....	45
4.5.3	編集	48
4.5.4	一括編集.....	50
4.5.5	削除	55
4.6	利用グループに関する機能.....	56
4.6.1	利用グループの設定.....	56
4.6.2	新規作成.....	57
4.6.3	編集	59
4.6.4	一括編集.....	62
4.6.5	削除	64
4.6.6	コマンド実行	65
4.7	エラーログ出力	71
4.7.1	公開/非公開切り替えコマンド.....	71
4.7.2	利用ユーザー情報.....	71
4.8	オプション.....	72
4.9	ユーザーメンテナンス.....	74
4.9.1	起動	74
4.9.2	登録	75
4.9.3	修正	76
4.9.4	削除	78
4.9.5	パスワードリセット.....	79
4.9.6	有効/無効.....	80
4.9.7	CSV に関する機能.....	81
4.9.8	コマンド実行	83
4.9.9	エラーログ出力	85
5.	削除.....	86
Appendices	87
1.	入力可能文字数一覧	87
2.	コマンドオプション(引数)一覧.....	88
●	階層情報・アドレス情報の CSV インポート・エクスポート	88
●	複数アドレス帳の公開/非公開切り替え	88
●	利用グループ情報の CSV インポート・エクスポート	89

はじめに

本ガイドは、組織階層情報メンテナンスツール(以下メンテナンスツールと表示します)を使用する際の、操作方法について説明しています。

本ガイドに記載されていない追加情報は、弊社の製品ページで公開しています。

(<http://www.bbsystem.co.jp/product/addresslook>)

1. 機能紹介

メンテナンスツールは、階層型アドレス帳に表示されるデータおよびサインインアカウント管理、AddressLook 機能設定を GUI でメンテナンスできるアプリケーションです。

また、階層型アドレス帳情報は CSV インポート・エクスポート機能を用いて一括処理を行うことができます。CSV インポート・エクスポートは、CUI で処理することも可能です。

● 主な機能

メンテナンスツールでは、以下の機能を使用することが可能です。

- * 階層型アドレス帳データのメンテナンス
 - ・ 部署の新規作成・移動・コピー・変更・削除
 - ・ アドレスの新規作成・移動・コピー・変更・削除
 - ・ カスタム項目名の変更
 - ・ カスタム項目のデータ一括削除
 - ・ 表示項目数・並び順の変更
 - ・ アドレス情報の検索
- * 複数アドレス帳のメンテナンス
 - ・ アドレス帳設定の新規作成・編集・削除
 - ・ 利用可能グループの管理
 - ・ 利用可能ユーザーの管理(CSV ファイル形式のデータのインポート・エクスポート)
- * 利用グループのメンテナンス
 - ・ 利用グループの新規作成・編集・削除
 - ・ 利用可能なアドレス帳の管理
 - ・ 利用可能ユーザーの管理(CSV ファイル形式のデータのインポート・エクスポート)
- * ユーザー情報のメンテナンス
- * CSV ファイル形式の階層型アドレス帳データのインポート・エクスポート
- * CSV ファイル形式の利用グループデータのインポート・エクスポート
- * (オンプレミス版のみ)高速版 CSV インポート・エクスポート
- * AddressLook 利用設定

2. 準備

本章では、メンテナンスツールの導入に際しての準備について説明します。

2.1 システム条件

メンテナンスツールを動作させるために必要なシステム条件について説明します。

以下のソフトウェアコンポーネントが必要です。これらのソフトウェアは、メンテナンスツールを導入する前に、あらかじめインストールしてください。

※最新の情報は、弊社サポートページをご参照ください。

(<https://portal.bbsonlineservices.net/FAQ/AddressLook>)

- * Windows 8.1、Windows 10、Windows Server 2012、Windows Server 2012 R2、Windows Server 2016、Windows Server 2019 を使用していること
- * .NET Framework 4.5.2 が導入済みであること
- * 最新のルート証明書を導入済みであること

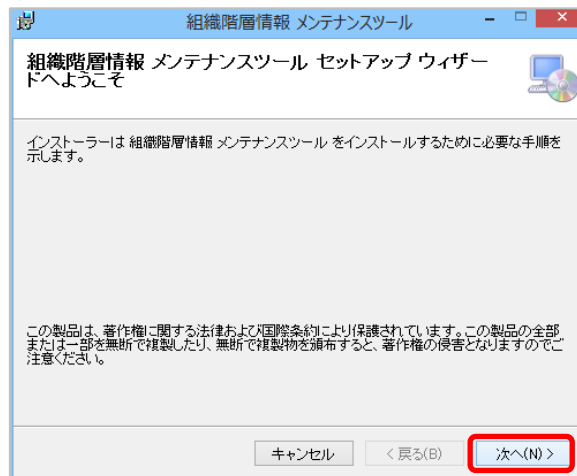
3. 導入

本章では、メンテナンスツールの導入(インストール)について説明します。

3.1 インストール

メンテナンスツールをインストールするには、以下の手順を実施します。

- 1 メンテナンスツールインストール用の HABMaintenanceSetup.msi を実行します。
- 2 ウィザードが起動します。
- 3 「次へ」を選択します。

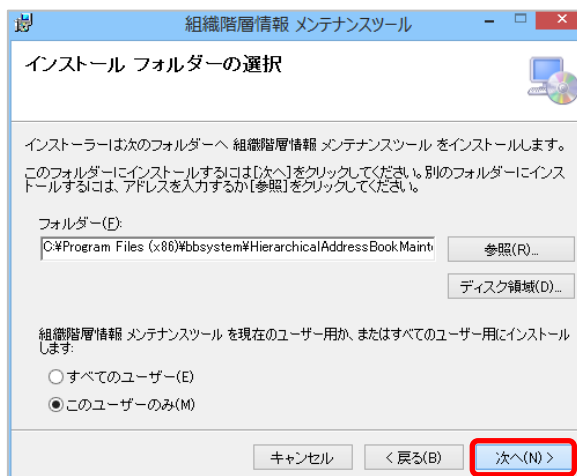


[画面 1]

- 4 プログラムファイルを展開するフォルダを選択し、メンテナンスツールを使用できるユーザーの範囲を選択します。「次へ」を選択します。

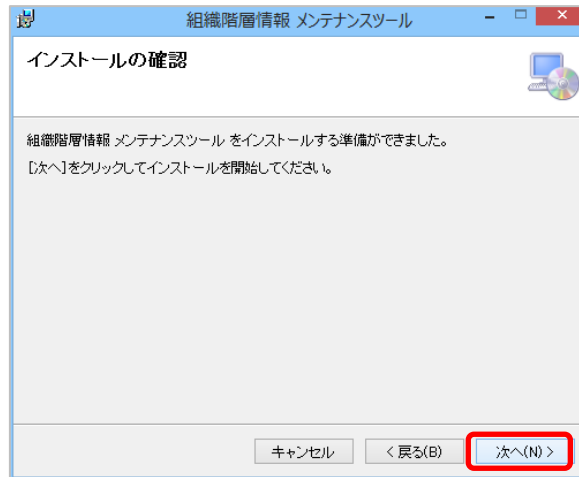
「すべてのユーザー」：同じ PC の他の利用者がメンテナンスツールを使用できます。

「このユーザーのみ」：同じ PC の他の利用者はメンテナンスツールを使用できません。



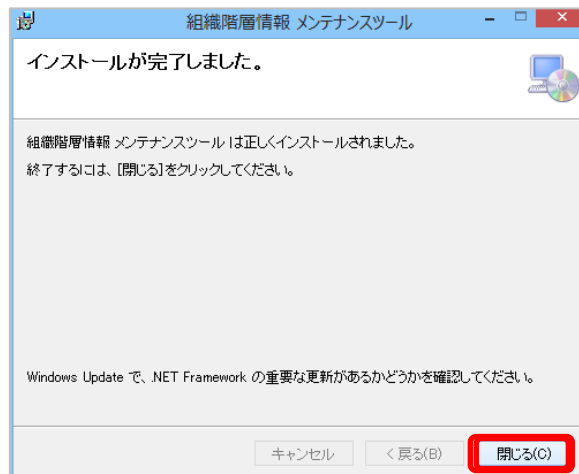
[画面 2]

- 5 「次へ」を選択すると、インストールを開始します。



[画面 3]

- 6 ユーザーアクセス制御画面が表示された場合、「はい」を選択します。
7 インストールが完了したことを確認し、「閉じる」を選択します。



[画面 4]

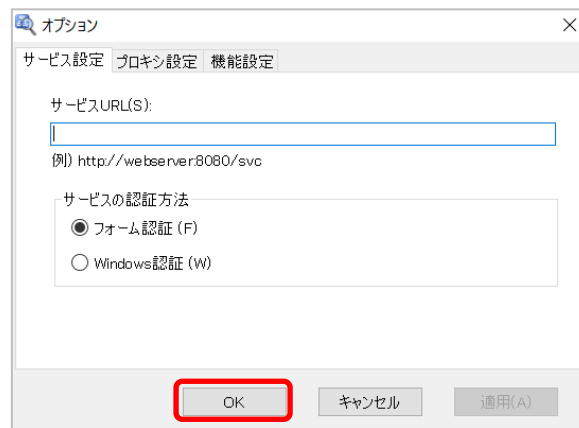
3.2 メンテナンスツールの起動

- Windows 7/Windows Server 2008 R2 環境の場合
スタートメニューの [すべてのプログラム] - [HierarchicalAddressBook] - [Maintenance Tool] に、「組織階層情報 メンテナンスツール」のショートカットが作成されます。
ショートカットを実行すると、メンテナンスツールが起動します。
- Windows 8.1 環境の場合
アプリメニューで「組織階層情報 メンテナンスツール」を検索し、実行してください。
- Windows 10 環境の場合
スタートメニューの [HierarchicalAddressBook] に、「組織階層情報 メンテナンスツール」のショートカットが作成されます。
ショートカットを実行すると、メンテナンスツールが起動します。

3.3 初期設定

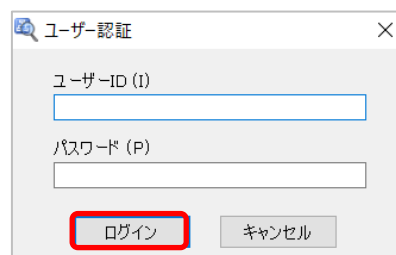
メンテナンスツールをご利用いただくためには、以下の初期設定を行う必要があります。

- 1 メンテナンスツールを起動します。
- 2 初回起動時は、オプション画面が表示されます。
「サービス URL」に Online サービス事務局から通知されたサービス URL を入力します。
 - * オンプレミスの場合：(例) `http://<AddressLook サーバー名>/svc`
 - * オンラインの場合：(例) `https://www.addresslook.net/svc2`
- 3 「サービスの認証方法」を設定し、「OK」を選択します。



[画面 5]

- 4 ユーザー認証ダイアログが表示された場合は、管理者アカウント(ユーザーID@ドメイン名)とパスワードを入力し、「ログイン」を選択します。



[画面 6]

メンテナンスツールは、管理者として登録されたユーザーのみログイン可能です。管理者権限の無いユーザーは、ログインできません。

4. メンテナンスツールの使い方

本章では、メンテナンスツールの使い方について機能別に説明します。

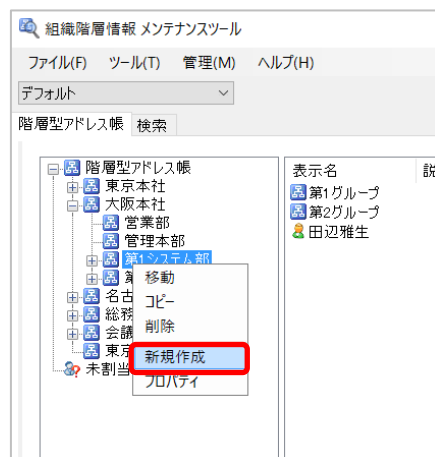
4.1 部署に関する機能

部署(組織階層)の新規作成、移動、コピー、変更、削除を行うことが可能です。

4.1.1 新規作成

部署(組織階層)を新規作成します。

- 1 複数アドレス帳のプルダウンリストを開き、使用するアドレス帳を選択します。
(初回起動時は、「デフォルト」アドレス帳のみ表示されます。)
- 2 任意の部署名を右クリックし、「新規作成」を選択します。
(初回起動時は、階層型アドレス帳タブに「階層型アドレス帳」のみ表示されます。)



[画面 7]

- 3 「新規：部署」画面が表示されるので、「表示名」、「説明」、「表示順」に必要な情報を入力します。
 - 各項目の説明
 - ・ 表示名(必須入力)
新規作成する部署の表示名を入力します。(最大 255 文字)
 - ・ 説明
部署の説明を入力します。(最大 255 文字)
※ResourceLook との連携機能を利用する場合は、説明欄に [resource] と記載します。

- ・ 表示順

数値を入力します。(0～999999)

同じ組織階層にある部署は、数値の大きい順に表示されます。

数値が同じ場合は、表示名の文字コードの昇順に表示されます。

[画面 8]

4 「OK」を選択します。

同一階層レベルに同じ表示名の階層は作成できません。異なる階層レベルの場合、同じ表示名の階層を作成可能です。

(例)「東京本社¥営業部」と「東京本社¥管理本部¥営業部」は、階層レベルが異なるため、作成可能です。

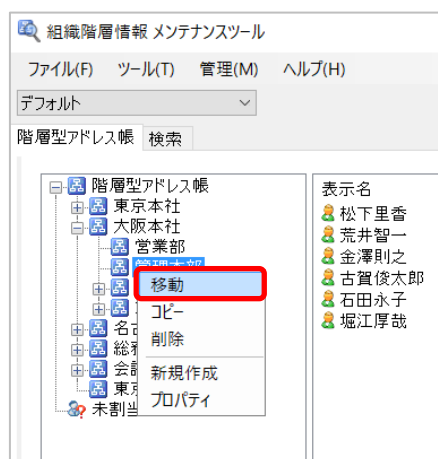
4.1.2 移動

部署(組織階層)を異なる階層レベルに移動します。

部署内に含まれるアドレスも、併せて移動されます。

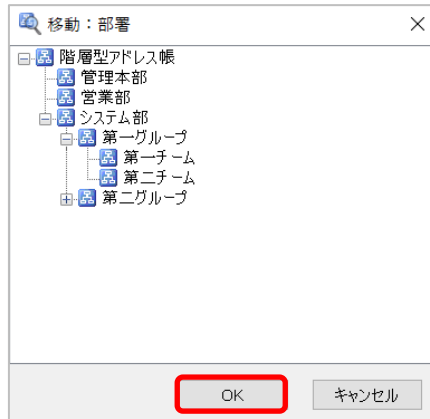
※複数アドレス帳を越えての移動はできません。部署を含むアドレス帳をエクスポートし、移動先にインポートするか、表示先のアドレス帳で部署を新規作成してください。

- 1 複数アドレス帳のプルダウンリストを開き、使用するアドレス帳を選択します。
- 2 移動したい任意の部署名を右クリックし、「移動」を選択します。



[画面 9]

- 3 「移動：部署」画面が表示されるので、移動先の部署名を選択し、「OK」を選択します。



[画面 10]

- 4 元の組織階層から部署が削除され、移動先に指定した組織階層内へ移動されます。
また、ドラッグアンドドロップ操作でも、異なる組織階層への移動が可能です。

同一階層レベルに同じ表示名の階層が存在する場合、移動できません。異なる階層レベルの場合のみ、同じ表示名の階層を移動可能です。

(例)「東京本社¥営業部」と「東京本社¥管理本部¥営業部」は、階層レベルが異なるため、移動可能です。

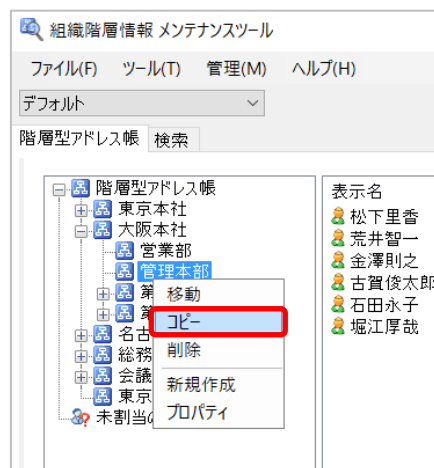
4.1.3 コピー

部署(組織階層)を異なる階層レベルにコピーします。

対象の部署内に含まれる部署・アドレスデータはコピーされません。

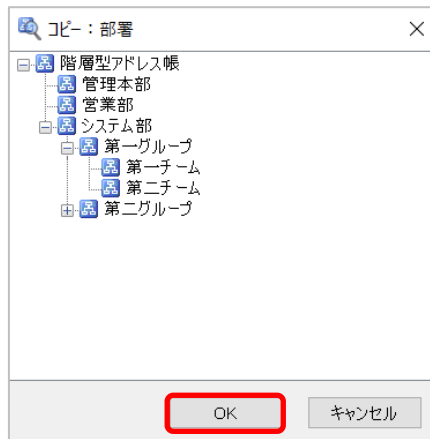
※複数アドレス帳を越えてのコピーはできません。部署を含むアドレス帳をエクスポートし、移動先にインポートするか、表示先のアドレス帳で部署を新規作成してください。

- 1 複数アドレス帳のプルダウンリストを開き、使用するアドレス帳を選択します。
- 2 コピーしたい任意の部署名を右クリックし、「コピー」を選択します。



[画面 11]

- 3 「コピー：部署」画面が表示されるので、コピー先の階層組織を選択し、「OK」を選択します。



[画面 12]

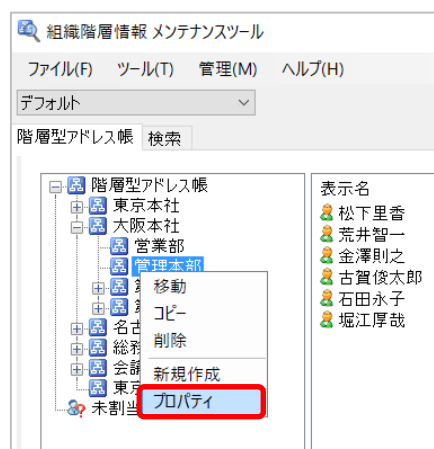
- 4 コピー先に指定した組織階層内に部署が作成されたことを確認します。
また、[Ctrl]キーを押した状態で部署をドラッグアンドドロップ操作することでも、コピー可能です。

同一階層レベルにコピーする場合、部署名の末尾に「コピー」と表示されます。(例)「営業部 - コピー」

4.1.4 変更

部署(組織階層)のプロパティ情報を変更します。

- 1 複数アドレス帳のプルダウンリストを開き、使用するアドレス帳を選択します。
- 2 変更したい部署名を右クリックし、「プロパティ」を選択します。



[画面 13]

3 「変更：部署」画面が表示されるので、「表示名」、「説明」、「表示順」に必要な情報を入力し、「OK」を選択します。

- 各項目の説明

- ・ 表示名(必須入力)

変更する部署の表示名を入力します。(最大 255 文字)

- ・ 説明

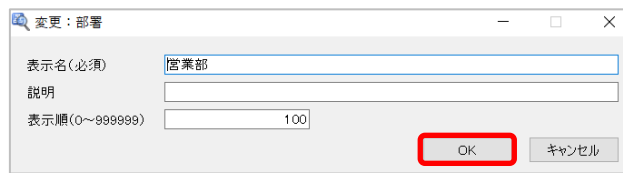
部署の説明を入力します。(最大 255 文字)

- ・ 表示順

数値を入力します。(0～9999999)

同じ組織階層にある部署は、数値の大きい順に表示されます。

数値が同じ場合は、表示名の文字コードの昇順に表示されます。



[画面 14]

同一階層レベルに存在する部署名と同じ表示名には変更できません。異なる階層レベルの場合は、同じ部署名に変更可能です。

(例)「東京本社¥営業部」と「東京本社¥管理本部¥営業部」は、階層レベルが異なるため、作成可能です。

4.1.5 削除

部署(組織階層)を削除します。

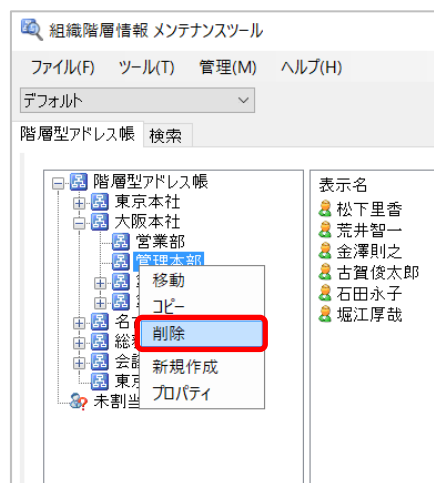
部署を削除すると、配下に所属する部署も併せて削除されます。

第一階層(ルート)の部署を削除する場合、含まれるアドレスデータはすべて削除されます。

第二階層以下の部署を削除する場合、含まれるアドレスデータは削除されず、すべて「未割当のアドレス」に移動します。

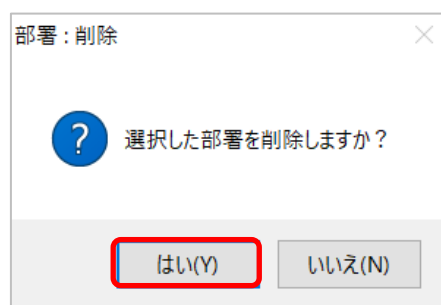
※「未割当のアドレス」内のデータは、定期的に削除するようにしてください。

- 1 複数アドレス帳のプルダウンリストを開き、使用するアドレス帳を選択します。
- 2 削除対象の部署名を右クリックし、「削除」を選択します。
※この例では、「大阪本社」が第一階層(ルート)の階層レベルになります。



[画面 15]

- 3 「部署：削除」画面が表示されるので、「はい」を選択します。



[画面 16]

- 4 選択した部署が組織階層から削除されます。

下位階層の数が 30 を超える部署の場合は、削除できません。下位階層の深さが 30 以下になるよう、複数回に分けて削除してください。

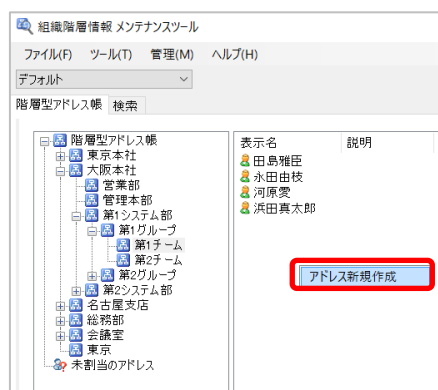
4.2 アドレスに関する機能

アドレスの新規作成、異動(移動)、兼任(コピー)、変更、削除、検索を行うことが可能です。

4.2.1 新規作成

アドレスを新規作成します。

- 1 複数アドレス帳のプルダウンリストを開き、使用するアドレス帳を選択します。
- 2 アドレスを登録したい組織階層を開き、アドレス表示欄の空白部分を右クリックし、「アドレス新規作成」を選択します。



[画面 17]

- 3 「新規：アドレス」画面が表示されるので、各項目に必要な情報を入力し、「OK」を選択します。

※アドレス帳の設定により、表示される項目数と項目名が変動します。

- 各項目の説明

- ・ 姓、名

姓、名を入力します。(各最大 255 文字)

- ・ 表示名(※必須入力)

表示名を入力します。(最大 255 文字)

- ・ エイリアス

メールエイリアスを入力します。(最大 300 文字)

- ・ フリガナ(姓)、フリガナ(名)、フリガナ(表示名)

姓、名、表示名のフリガナを入力します。(各最大 255 文字)

- ・ 電子メールアドレス(※必須入力)

電子メールアドレスを入力します。(最大 300 文字)

- ・ アドレスタイプ

種別を「グループ」、「ユーザー」、「連絡先」、「リソース」から選択します。

種別により、AddressLook アドインに表示するアイコンの種類が変わります。

- ・ 市区町村、電話番号、役職、会社名、部署、事業所
市区町村、電話番号、役職、会社名、部署、事業所を入力します。(各最大 255 文字)
- ・ 表示順
数値を入力します。(0~999999)
同じ組織内にあるアドレスは、数値の大きい順に表示されます。
数値が同じ場合は、表示名の文字コードの昇順に表示されます。
- ・ カスタム項目 01~カスタム項目 15
該当するデータを入力します。(各最大 255 文字)
※「有効」に設定されているカスタム項目のみ表示されます。ここでは「非表示」設定は反映しません。

新規：アドレス

名前		
姓(L)	<input type="text"/>	フリガナ(姓)
名(F)	<input type="text"/>	フリガナ(名)
表示名(必須)	<input type="text"/>	フリガナ(表示名XP)
エイリアス(I)	<input type="text"/>	

電子メールアドレス

電子メールアドレス(必須)(-)	<input type="text"/>	アドレスタイプ	ユーザー
------------------	----------------------	---------	------

市区町村(Y)

<input type="text"/>	役職(E)	<input type="text"/>
----------------------	-------	----------------------

電話番号(H)

<input type="text"/>	会社名(M)	<input type="text"/>
----------------------	--------	----------------------

表示順(0~999999)

<input type="text" value="0"/>	部署(D)	<input type="text"/>
--------------------------------	-------	----------------------

事業所(O)

<input type="text"/>

OK キャンセル

[画面 18]

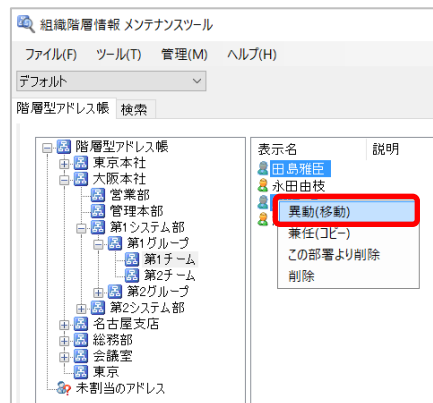
同一組織階層内に同じ表示名・メールアドレスのアドレスは作成できません。異なる組織階層の場合、同じ表示名・メールアドレスのアドレスを作成可能です。

4.2.2 異動(移動)

アドレスを所属部署から削除し、異なる部署へ異動(移動)します。

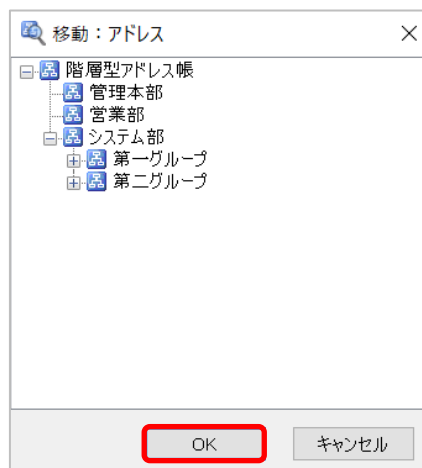
※複数アドレス帳を越えての異動(移動)はできません。アドレスを含むアドレス帳をエクスポートし、異動(移動)先にインポートするか、表示先のアドレス帳でアドレスを新規作成してください。

- 1 複数アドレス帳のプルダウンリストを開き、使用するアドレス帳を選択します。
- 2 移動対象のアドレスの表示名を右クリックし、「異動(移動)」を選択します。



[画面 19]

- 3 「移動：アドレス」画面が表示されるので、移動先の部署を選択し、「OK」を選択します。



[画面 20]

- 4 元の部署からアドレスが削除され、移動先に指定した部署内にアドレスが移動されたことを確認します。

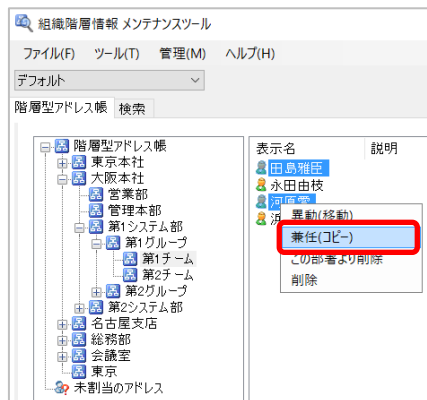
また、ドラッグアンドドロップ操作でも、アドレスを異動(移動)可能です。

4.2.3 兼任(コピー)

アドレスを所属部署から異なる部署に兼任(コピー)します。

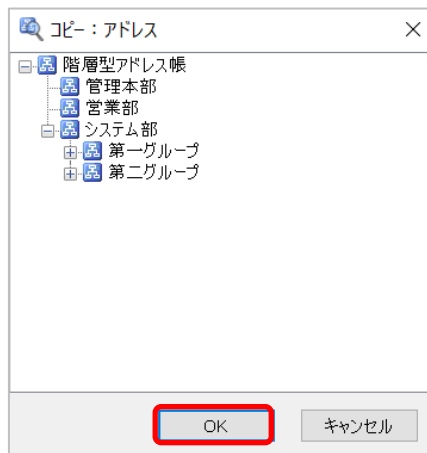
※複数アドレス帳を越えての兼任(コピー)はできません。アドレスを含むアドレス帳をエクスポートし、移動先にインポートするか、表示先のアドレス帳でアドレスを新規作成してください。

- 1 複数アドレス帳のプルダウンリストを開き、使用するアドレス帳を選択します。
- 2 コピー対象のアドレスを右クリックし、「兼任(コピー)」を選択します。



[画面 21]

- 3 「コピー：アドレス」画面が表示されるので、コピー先の部署を選択し、「OK」を選択します。



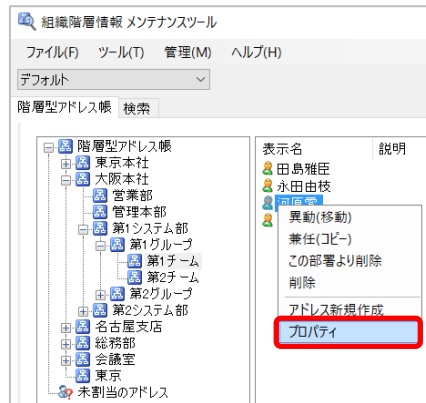
[画面 22]

- 4 コピー先に指定した部署内にアドレスが作成されたことを確認します。
また、[Ctrl]キーを押した状態でアドレスの表示名をドラッグアンドドロップ操作することでも、アドレスをコピー可能です。

4.2.4 変更

アドレスのプロパティ情報を変更します。

- 1 複数アドレス帳のプルダウンリストを開き、使用するアドレス帳を選択します。
- 2 変更対象のアドレスを右クリックし、「プロパティ」を選択します。



[画面 23]

- 3 「変更：アドレス」画面が表示されるので、各項目に必要な情報を入力し、「OK」を選択します。

※アドレス帳の設定により、表示される項目数と項目名が変動します。

- 各項目の説明
 - ・ 姓、名
姓、名を入力します。(各最大 255 文字)
 - ・ 表示名(※必須入力)
表示名を入力します。(最大 255 文字)
 - ・ エイリアス
メールエイリアスを入力します。(最大 300 文字)
 - ・ フリガナ(姓)、フリガナ(名)、フリガナ(表示名)
姓、名、表示名のフリガナを入力します。(各最大 255 文字)
 - ・ 電子メールアドレス(※必須入力)
電子メールアドレスを入力します。(最大 300 文字)
 - ・ アドレスタイプ
種別を「グループ」、「ユーザー」、「連絡先」、「リソース」から選択します。
 - ・ 市区町村、電話番号、役職、会社名、部署、事業所
市区町村、電話番号、役職、会社名、部署、事業所を入力します。(各最大 255 文字)
 - ・ 表示順
数値を入力します。(0～999999)
同じ組織内にあるアドレスは、数値の大きい順に表示されます。
数値が同じ場合は、表示名の文字コードの昇順に表示されます。

・ カスタム項目 01～カスタム項目 15

該当するデータを入力します。(各最大 255 文字)

※「有効」に設定されているカスタム項目のみ表示されます。ここでは「非表示」設定は反映しません。

[画面 24]

同一組織階層内に存在するアドレスと同じ表示名・メールアドレスには変更できません。異なる組織階層の場合、同じ表示名・メールアドレスに変更可能です。

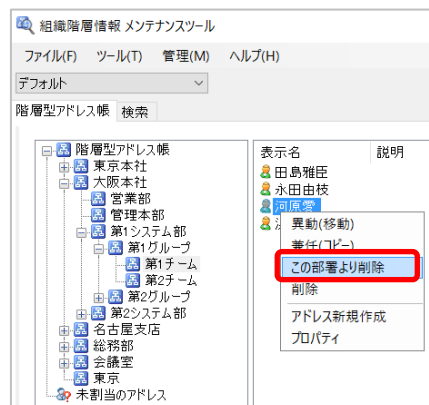
4.2.5 この部署より削除

アドレスを部署から削除するには、以下の手順を実施します。

部署より削除されたアドレスは、すべて「未割当のアドレス」に移動します。

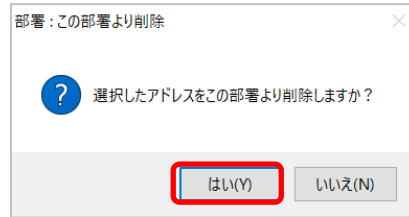
※「未割当のアドレス」内のデータは定期的に削除するようにしてください。

- 1 複数アドレス帳のプルダウンリストを開き、使用するアドレス帳を選択します。
- 2 削除対象のアドレスを右クリックし、「この部署より削除」を選択します。



[画面 25]

- 3 削除確認メッセージが表示されるので、「はい」を選択します。



[画面 26]

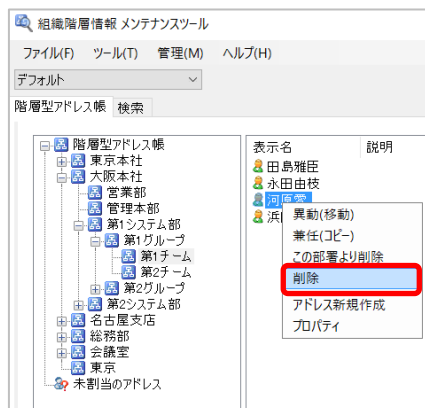
- 4 対象のアドレスは部署内から削除され、「未割当のアドレス」に移動されます。

アドレスの情報を削除する場合は、後述「4.2.6 完全削除」をご参照ください。

4.2.6 完全削除

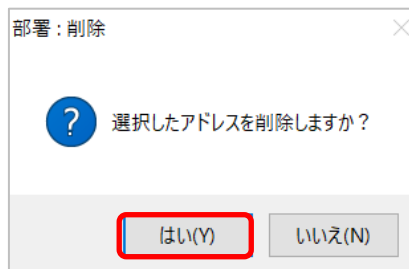
アドレス情報を全部署内から削除します。

- 1 複数アドレス帳のプルダウンリストを開き、使用するアドレス帳を選択します。
- 2 削除したい任意のアドレスを右クリックし、「削除」を選択します。



[画面 27]

- 3 削除確認メッセージが表示されるので、「はい」を選択します。



[画面 28]

- 4 対象のアドレスが部署内から削除され、「未割当のアドレス」にも表示されません。

4.2.7 検索

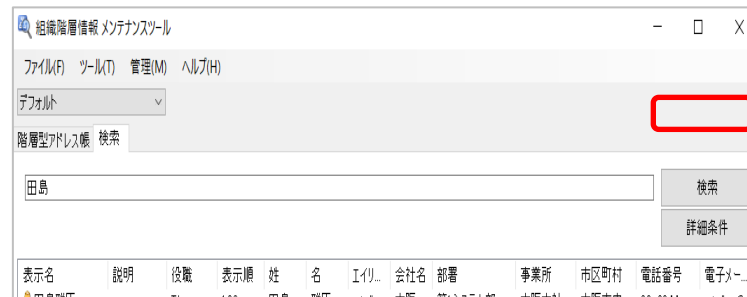
(1) フリー検索

全部署内から、詳細情報に検索文字列を含むアドレスを抽出表示します。

検索文字列に半角スペースまたは全角スペースを含む場合、複数の単語として and 検索を行います。

※複数の階層に所属(兼部・兼任)しているユーザーは、階層別に表示されます。

- 1 「検索」タブを開きます。
- 2 複数アドレス帳のプルダウンリストを開き、使用するアドレス帳を選択します。
- 3 テキストボックスに検索したい文字列を入力し、「検索」を選択します。
- 4 検索文字列を含むアドレスが抽出されます。



[画面 29]

アドレス帳で非表示になっている項目の内容も検索対象に含まれます。

(2) 詳細項目検索(高度な検索)

検索対象となる詳細情報の項目を指定し、検索文字列を含むアドレスを抽出表示します。

- 1 「検索」タブを開きます。
- 2 複数アドレス帳のプルダウンリストを開き、使用するアドレス帳を選択します。
- 3 「詳細条件」を選択し、「高度な検索」画面を開きます。



[画面 30]

- 4 検索対象の項目に、検索条件となる文字列を入力し、「OK」を選択します。
※10 項目まで同時に設定できます。

[画面 31]

- 5 「詳細条件が設定されています」というメッセージが表示されます。
6 「検索」を選択します。
7 複数複数項目に一致するアドレスが抽出されます。

[画面 32]

アドレス帳で非表示になっている項目の内容も検索対象に含まれます。

4.3 CSV に関する機能

CSV 形式のファイルからインポートやエクスポートを行うことで、部署およびアドレス情報の復元処理や手動での情報更新、削除、作成を行うことが可能です。

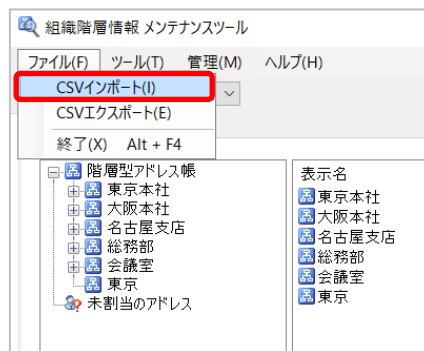
また、コマンドラインからも実行可能です。オンプレミス版の場合は、高速版 CSV インポート・エクスポート処理を利用可能です。

※CSV インポート・エクスポートに使用する CSV フォーマットについては、別紙「CSV フォーマットガイド」をご参照ください。

4.3.1 アドレス帳 CSV インポート

任意のアドレス帳を指定し、部署およびアドレス情報を CSV 形式のファイルからインポートします。

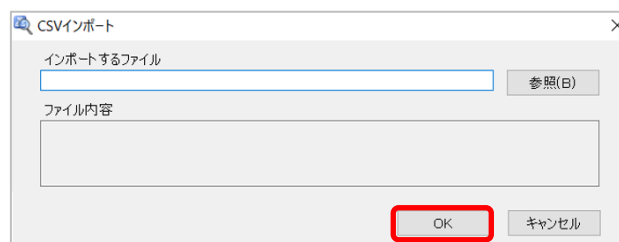
- 1 複数アドレス帳のプルダウンリストを開き、使用するアドレス帳を選択します。
- 2 「ファイル」メニューから「CSV インポート」を選択します。



[画面 33]

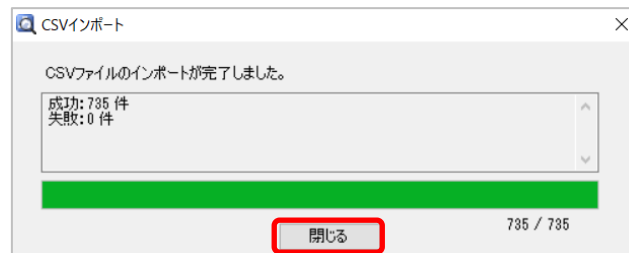
- 3 「CSV インポート」画面が開くので、「参照」を選択します。
- 4 インポートする CSV ファイルを選択し、「開く」を選択します。
- 5 「インポートするファイル」に対象のファイルパスが表示されるので、「OK」を選択します。

※ファイル内に<AddressBookCode>の指定がある場合、該当のアドレス帳へインポートします。指定がない場合、現在表示中のアドレス帳へインポートします。



[画面 34]

- 6 部署およびアドレス情報が更新されたことを確認し、「閉じる」を選択します。



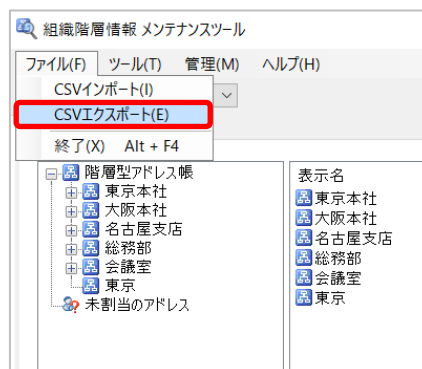
[画面 35]

CSV ファイルの処理でエラーになった場合は、該当の行数とエラー内容をエラーログに出力し、次の行から処理が続行されます。詳細については、後述「4.3.5 ログ出力」をご参照ください。

4.3.2 アドレス帳 CSV エクスポート

複数アドレス帳に登録されている部署およびアドレス情報を、CSV 形式のファイルにエクスポートします。

- 1 複数アドレス帳のプルダウンリストを開き、使用するアドレス帳を選択します。
- 2 「ファイル」メニューから「CSV エクスポート」を選択します。



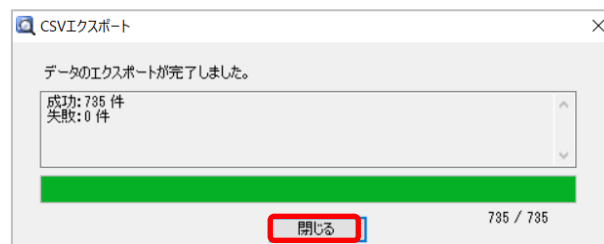
[画面 36]

- 3 「CSV エクスポート」画面が開くので、各項目に必要な情報を入力します。
 - 各項目の説明
 - ・ 「参照」ボタン
CSV ファイルをエクスポートする場所を指定します。
 - ・ 「全てのアドレス帳データをエクスポート」チェックボックス
チェックがオン：すべてのアドレス帳をエクスポートします。フォーマットに<AddressBookCode>列が出力されます。
チェックがオフ：現在表示中のアドレス帳のデータのみエクスポートします。フォーマットに<AddressBookCode>列は出力されません。



[画面 37]

- 4 ファイルパスが入力されるので、「OK」を選択します。
- 5 指定した場所に CSV ファイルが作成されたことを確認し、「閉じる」を選択します。



[画面 38]

CSV ファイルの処理でエラーになった場合は、該当の行数とエラー内容をエラーログに出力し、次の行から処理が続行されます。詳細については、後述「4.3.5 ログ出力」をご参照ください。

4.3.3 コマンド実行

CSV インポート・エクスポートをコマンドラインから実行します。

複数アドレス帳の機能については、後述の「4.5 複数アドレス帳に関する機能」をご参照ください。

※パラメータオプション(引数)については、Appendices の「階層情報・アドレス情報の CSV インポート・エクスポート」をご参照ください。

(1) 接続設定

インポートエクスポートツールの設定ファイル(HABImportExportTool.exe.config)をテキストエディタで開き、サービス URL、ログファイルの出力先、サービスの認証方法を指定します。

- ファイルパス(既定インストールの場合)

C:\Program Files (x86)\bbsystem\HierarchicalAddressBookMaintenanceTool

キー名<key>	記入例<value>	説明
ServceURL	https://www.addresslook.net/svc2/	ご案内メール等に記載されたサービス URL を指定します。
LogPath	C:\Logs\bbshabcsv.log	ログファイルの出力先を指定します。
Authentication	1	サービスの認証方法を指定します。 1:フォーム認証/2:Windows 認証
Proxy_Use	1	AddressLook サーバーへのアクセスに認証 Proxy を利用するか指定します。 1:認証 Proxy を利用する 0:認証 Proxy を利用しない
※以下の項目は「1：認証 Proxy を利用する」の場合のみ指定します。		
Proxy_Address	proxyserver.domain.jp	プロキシサーバーのアドレスを指定します。省略した場合、設定を自動的に検出します。
Proxy_Port	8080	プロキシサーバーのアドレスを指定した場合に、ポートを指定します。
Proxy_Authentication	2	プロキシサーバーの認証方式を指定します。 1:認証なし 2:現在のユーザーで認証する 3:認証情報を指定する
Proxy_UserName	Domain\username	認証方式が「3：認証情報を指定する」の場合、使用するユーザーID を指定します。
Proxy_Password	password	認証方式が「3：認証情報を指定する」の場合、使用するパスワードを指定します。

(2) インポート実行コマンド

インポートエクスポートツールの設定ファイルに設定後、以下の手順を実施します。

- 1 コマンドプロンプトを起動します。
- 2 以下のコマンドを入力し、実行します。
 - コマンド


```
cd C:\Program Files (x86)\bbsystem\HierarchicalAddressBookMaintenanceTool
```
- 3 以下のコマンドを入力し、実行します。
 - インポートコマンド 1(引数に登録先アドレス帳を指定しない場合)

※CSV ファイル内に<AddressBookCode>指定がある場合は、各アドレスデータは該当のアドレス帳に登録されます。

※コマンドは一行で入力します。

 - ・ コンソール表示ありの場合


```
HABImportExportTool.exe /I /F <CSV ファイルパス> /U <ユーザーID> /P <パスワード>
```
 - ・ コンソール表示なしの場合


```
HABImportExportToolNoConsole.exe /I /F <CSV ファイルパス> /U <ユーザーID> /P <パスワード>
```
 - * 入力例 1(「デフォルト」アドレス帳に登録する場合※CSV ファイル内にアドレス帳コード指定無し)
 - ・ コンソール表示ありの場合


```
HABImportExportTool.exe /I /F C:\data\Import20140601.csv /U testuser@example.com /P password
```
 - ・ コンソール表示なしの場合


```
HABImportExportToolNoConsole.exe /I /F C:\data\Import20140601.csv /U testuser@example.com /P password
```
 - インポートコマンド 2(引数に登録先アドレス帳を指定する場合)

※CSV ファイル内の<AddressBookCode>列は削除してください。

※コマンドは一行で入力します。

 - ・ コンソール表示ありの場合


```
HABImportExportTool.exe /I /F <CSV ファイルパス> /U <ユーザーID> /P <パスワード> /addressbookcode <アドレス帳コード>
```
 - ・ コンソール表示なしの場合


```
HABImportExportToolNoConsole.exe /I /F <CSV ファイルパス> /U <ユーザーID> /P <パスワード> /addressbookcode <アドレス帳コード>
```

＊ 入力例 2(アドレス帳「Tokyo」に登録する場合)

- ・ コンソール表示ありの場合

```
HABImportExportTool.exe /I /F C:¥data¥Import20140601.csv /U  
testuser@example.com /P password /addressbookcode Tokyo
```

- ・ コンソール表示なしの場合

```
HABImportExportToolNoConsole.exe /I /F C:¥data¥Import20140601.csv /U  
testuser@example.com /P password /addressbookcode Tokyo
```

4 以下のコマンドを入力し、実行します。戻り値を確認します。

- コマンド

```
echo %ERRORLEVEL%
```

戻り値	説明
0	インポートの実行に成功しました。
1	実行時にエラーが発生しています。 ※エラーの詳細は、出力されたログの内容を確認してください。

(3) エクスポート実行コマンド

設定ファイルを確認後、以下の手順を実施します。

- 1 コマンドプロンプトを起動します。
- 2 以下のコマンドを実行します。
 - コマンド


```
cd C:\Program Files (x86)\bbsystem\HierarchicalAddressBookMaintenanceTool
```
- 3 以下のコマンドを実行します。
 - エクスポートコマンド 1(引数に出力するアドレス帳を指定しない場合)

※<AddressBookCode>列を含む、すべてのアドレスデータを出力します。

※コマンドは一行で入力します。

 - ・コンソール表示ありの場合


```
HABImportExportTool.exe /E /F <CSV ファイルパス> /U <ユーザーID> /P <パスワード>
```
 - ・コンソール表示なしの場合


```
HABImportExportToolNoConsole.exe /E /F <CSV ファイルパス> /U <ユーザーID> /P <パスワード>
```

* 入力例 1(すべてのアドレスデータを出力する場合)

- ・コンソール表示ありの場合


```
HABImportExportTool.exe /E /F C:\data\Export20140601.csv /U testuser@example.com /P password
```
- ・コンソール表示なしの場合


```
HABImportExportToolNoConsole.exe /E /F C:\data\Export20140601.csv /U testuser@example.com /P password
```

- エクスポートコマンド 2(引数に出力するアドレス帳を指定する場合)

※出力される CSV ファイルには、<AddressBookCode>列を含みません。

※コマンドは一行で入力します。

 - ・コンソール表示ありの場合


```
HABImportExportTool.exe /E /F <CSV ファイルパス> /U <ユーザーID> /P <パスワード> /addressbookcode <アドレス帳コード>
```
 - ・コンソール表示なしの場合


```
HABImportExportToolNoConsole.exe /E /F <CSV ファイルパス> /U <ユーザーID> /P <パスワード> /addressbookcode <アドレス帳コード>
```

* 入力例 2(アドレス帳「Tokyo」のみ出力する場合)

- ・ コンソール表示ありの場合
HABImportExportTool.exe /E /F C:¥data¥Export20140601.csv /U
testuser@example.com /P password /**addressbookcode** Tokyo
- ・ コンソール表示なしの場合
HABImportExportToolNoConsole.exe /E /F C:¥data¥Export20140601.csv /U
testuser@example.com /P password /**addressbookcode** Tokyo

4 以下のコマンドを入力し、実行します。戻り値を確認します。

- コマンド
echo %ERRORLEVEL%

戻り値	説明
0	エクスポートの実行に成功しました。
1	実行時にエラーが発生しています。 ※エラーの詳細は、出力されたログの内容を確認してください。

(4) アドレス帳情報一括削除実行コマンド

指定したアドレス帳に紐づく全ての階層情報・アドレス情報を削除します。

※アドレス帳自体は削除されません。

設定ファイルを確認後、以下の手順を実施します。

- 1 コマンドプロンプトを起動します。
 - 2 以下のコマンドを実行します。
 - コマンド


```
cd C:\Program Files (x86)\bbsystem\HierarchicalAddressBookMaintenanceTool
```
 - 3 以下のコマンドを実行します。
 - 一括削除コマンド

※コマンドは一行で入力します。

 - ・コンソール表示ありの場合


```
HABImportExportTool.exe /DROP /addressbookcode <アドレス帳コード> /U <ユーザーID> /P <パスワード>
```
 - ・コンソール表示なしの場合


```
HABImportExportToolNoConsole.exe /DROP /addressbookcode <アドレス帳コード> /U <ユーザーID> /P <パスワード>
```
- * 入力例(アドレス帳「Tokyo」に紐づく全てのアドレス・階層データを削除する場合)
- ・コンソール表示ありの場合


```
HABImportExportTool.exe /DROP /addressbookcode Tokyo /U  
testuser@example.com /P password
```
 - ・コンソール表示なしの場合


```
HABImportExportToolNoConsole.exe /DROP /addressbookcode Tokyo /U  
testuser@example.com /P password
```

「デフォルト」アドレス帳のアドレス帳コードは「00000000000000000000」です。

(コマンド例)

```
HABImportExportTool.exe /DROP /addressbookcode 00000000000000000000 /U  
testuser@example.com /P password
```

- 4 以下のコマンドを入力し、実行します。戻り値を確認します。
 - コマンド


```
echo %ERRORLEVEL%
```

戻り値	説明
0	エクスポートの実行に成功しました。

戻り値	説明
1	実行時にエラーが発生しています。 ※エラーの詳細は、出力されたログの内容を確認してください。

※エラーの詳細は、出力されたログの内容を確認してください。

4.3.4 高速版コマンド実行

高速版 CSV インポート・エクスポートは、オンプレミス版のみ利用可能です。メンテナンスツールの CSV インポート・エクスポート処理を、コマンドから直接データベースに実行します。

※コマンドの詳細については、「4.3.3 コマンド実行」をご参照ください。

(1) 接続設定

インストールメディアから「¥モジュール¥高速版 CSV インポートエクスポートツール」をコピーし、任意の場所に保存します。

高速版インポートエクスポートツールの設定ファイル(HABImportExPortTool.exe.config)をテキストエディタで開き、SQL サーバー名、データベース名、SQL アカウントのログオン名、パスワードを設定します。

変更箇所

```

<connectionStrings>
  <add name="GetSqlConnectionString"
    connectionString="
      Data Source=<SQL サーバー名>; Initial Catalog=<AddressLook データベース名>;
      User ID=<SQL Server アカウントのログオン名>;
      Password=<SQL Server アカウントのパスワード>;" />

  <add name="Entities"
    connectionString="metadata=res://*/HABOnlineModel.csdl|res://*/HABOnlineModel.ssdl|
res://*/HABOnlineModel.msl;
    provider=System.Data.SqlClient; provider connection string=&quot;
      data source=<SQL サーバー名>; initial catalog=<AddressLook データベース名>;
      user id=<SQL Server アカウントのログオン名>;
      password=<SQL Server アカウントのパスワード>;
      multipleactiveresultsets=True; App=EntityFramework&quot;;
    providerName="System.Data.EntityClient" />

  <add name="MgmtEntities"
    connectionString="metadata=res://*/HABOnlineDB.csdl|res://*/HABOnlineDB.ssdl|
res://*/HABOnlineDB.msl;
    provider=System.Data.SqlClient; provider connection string=&quot;
      data source=AddressLook2012.gs.com;initial catalog=<構成データベース名>;
      user id=<SQL Serverアカウントのログオン名>;
      password=<SQL Serverアカウントのパスワード>;
      multipleactiveresultsets=True;App=EntityFramework&quot;;
    providerName="System.Data.EntityClient" />
</connectionStrings>
</configuration>

```

(2) インポート実行

設定ファイルを確認後、以下の手順を実施します。

- 1 コマンドプロンプトを起動します。
- 2 コマンド入力し、高速版 CSV インポートエクスポートツールのファイルパスを開きます。
 - コマンド
`cd <高速版ツールのファイルパス>`
 (例：`cd C:¥Temp¥AddressLook¥高速版 CSV インポートエクスポートツール`)
- 3 以下のコマンドを入力し、実行します。
 - インポートコマンド(引数に登録先アドレス帳を指定しない場合)
 ※CSV ファイル内に<AddressBookCode>指定がある場合は、各アドレスデータは該当のアドレス帳に登録されます。
 ※コマンドは一行で入力します。
 - ・コンソール表示ありの場合
`HABImportExportTool.exe /I /F <CSV ファイルパス>`
 - ・コンソール表示なしの場合
`HABImportExportToolNoConsole.exe /I /F <CSV ファイルパス>`

* 入力例(「デフォルト」アドレス帳に登録する場合※CSV ファイル内にアドレス帳コード指定無し)

- ・コンソール表示ありの場合
`HABImportExportTool.exe /I /F C:¥data¥Import20160601.csv`
- ・コンソール表示なしの場合
`HABImportExportToolNoConsole.exe /I /F C:¥data¥Import20160601.csv`

● 利用可能なコマンドオプション

コマンド	説明
/I	インポートを実行する場合に指定します。
/F	インポートの場合、読み込む CSV ファイルパスを指定します。 エクスポート場合、出力する CSV ファイルパスを指定します。
/L	ログファイルの出力先を指定します。(省略可)
/addressbookcode	複数アドレス帳の判別コードを指定します。(省略可)

● 利用不可能なコマンドオプション

コマンド	説明
/U	ユーザーID を指定します。

コマンド	説明
/P	パスワードを指定します。 ※「"」「¥」の記号はパスワードに利用できません。
/S	サービス URL を指定します。(省略可)
/A	サービスの認証方法を指定します。(省略可)

(3) エクスポート実行

設定ファイルを確認後、以下の手順を実施します。

- 1 コマンドプロンプトを起動します。
- 2 コマンドを入力し、高速版 CSV インポートエクスポートツールのファイルパスを開きます。

- コマンド

cd <高速版ツールのファイルパス>

(例：cd C:¥Temp¥AddressLook¥高速版 CSV インポートエクスポートツール)

- 3 以下のコマンドを入力し、実行します。

- エクスポートコマンド 1(引数に出力するアドレス帳を指定しない場合)

※<AddressBookCode>列を含む、すべてのアドレスデータを出力します。

※コマンドは一行で入力します。

- ・コンソール表示ありの場合

HABImportExportTool.exe /E /F <CSV ファイルパス>

- ・コンソール表示なしの場合

HABImportExportToolNoConsole.exe /E /F <CSV ファイルパス>

* 入力例 1(すべてのアドレスデータを出力する場合)

- ・コンソール表示ありの場合

HABImportExportTool.exe /E /F C:¥data¥Export20160601.csv

- ・コンソール表示なしの場合

HABImportExportToolNoConsole.exe /E /F C:¥data¥Export20160601.csv

- エクスポートコマンド 2(引数に出力するアドレス帳を指定する場合)

※出力される CSV ファイルには、<AddressBookCode>列を含みません。

※コマンドは一行で入力します。

- ・コンソール表示ありの場合

HABImportExportTool.exe /E /F <CSV ファイルパス> /addressbookcode <アドレス帳コード>

- ・コンソール表示なしの場合

HABImportExportToolNoConsole.exe /E /F <CSV ファイルパス> /addressbookcode
<アドレス帳コード>

＊ 入力例 2(アドレス帳「Tokyo」のみ出力する場合)

- ・ コンソール表示ありの場合

HABImportExportTool.exe /E /F C:¥data¥Export20160601.csv /**addressbookcode**
Tokyo

- ・ コンソール表示なしの場合

HABImportExportToolNoConsole.exe /E /F C:¥data¥Export20160601.csv
/**addressbookcode** Tokyo

● 利用可能なコマンドオプション

コマンド	説明
/E	エクスポートを実行する場合に指定します。
/F	インポートの場合、読み込む CSV ファイルパスを指定します。 エクスポート場合、出力する CSV ファイルパスを指定します。
/L	ログファイルの出力先を指定します。(省略可)
/addressbookcode	複数アドレス帳の判別コードを指定します。(省略可)

● 利用不可能なコマンドオプション

コマンド	説明
/U	ユーザーID を指定します。
/P	パスワードを指定します。 ※「"」「¥」の記号はパスワードに利用できません。
/S	サービス URL を指定します。(省略可)
/A	サービスの認証方法を指定します。(省略可)

(4) 所属階層が存在しない不正データの処理

所属する階層が存在しないために、メンテナンスツール(GUI)上に表示されない不正データが存在する場合の対処方法について説明します。

※不正データは、「未割当のアドレス」とは異なります。

不正データの処理には、高速版 CSV インポートエクスポートツールを使用します。

高速版 CSV エクスポート実行において、出力対象データに所属階層が存在しない場合、所属階層が「99999999-9999-9999-9999-999999999999(¥残留データ)」に変更されます。

高速版 CSV インポート実行において、所属階層が「¥残留データ」の不正データが存在する場合、

所属先を既存の階層に「変更」してください。もしくは不正データを「削除」してください。
 なお、<ParentHierarchyPath>および<UpdateParentHierarchyPath>には、「¥残留データ」を指定することはできません。

4.3.5 ログ出力

CSV インポート・エクスポートの実行結果に「失敗：○件」と表示された場合、以下のログファイルに詳細なエラーメッセージが出力されています。
 ※出力先は、コマンドラインの引数(/L)または設定ファイルより変更可能です。

- 出力場所 1(メンテナンスツールより実行した場合)
 ※AppData フォルダは、既定の設定では隠しフォルダになっています。
 C:¥Users¥<User>¥AppData¥Roaming¥BBS.HierarchicalAddressBookMaintenanceTool¥CSVImportExport.log
- 出力場所 2(コマンドラインより実行した場合)
 C:¥Logs¥bbshabcsv.log

＊ エラーログ例
 「2 行目 指定されたデータが存在しません。」
 更新対象のアドレスが存在しないため、エラーが発生しました。

項目行	Operator	ClassObject	DisplayName	...
0 行目(成功)	add	address	ビービー太郎	...
1 行目(成功)	remove	address	ビービー太郎	...
2 行目(エラー)	update	address	ビービー太郎	...

※データの開始列のログは「0 行目」と記載されます。以降は連番です。

4.4 カスタム項目に関する機能

アドレス帳ごとに、任意の名前に変更できる「カスタム項目」を設定することが可能です。

また、表示する項目数および表示順を設定することが可能です。

複数アドレス帳の操作については、後述の「4.5.複数アドレス帳に関する機能」をご参照ください。

4.4.1 項目名の設定

カスタム項目名を設定するには、以下の手順を実施します。

- 1 「組織階層情報アドレス帳設定」画面から、任意のアドレス帳の編集画面を開き、「カスタム項目の設定」タブを開きます。
- 2 利用する項目の「有効」チェックをオンにし、「項目名」に任意の文字列を入力します。
 - 項目の説明
 - ・ 有効
カスタム項目の有効・無効を設定します。
「無効」(チェックがオフ)の場合、該当するカスタム属性は表示されず、検索の対象になりません。
 - ・ 内部列名(UserItem01～15)
カスタム項目の判別名です。システムで使用するため、名称を変更できません。
CSV インポートを利用する場合に、登録列を特定するために使用します。
 - ・ 項目名
カスタム項目の表示名を設定します。(最大 25 文字)
複数のカスタム項目に同じ名前を指定可能です。
各項目は、初期値として配置順に「カスタム属性 01～カスタム属性 15」が表示されます。テキストボックスを空の状態で登録すると、初期値を入力します。
 - ・ データ消去
カスタム項目に紐づく列のデータを一括削除します。
項目が「有効」(チェックがオン)の場合、「データ消去」は使用できません。

[画面 39]

- 3 「登録」を選択すると、アドレス帳に設定が保存されます。

4.4.2 データ一括削除

カスタム項目内に登録されたデータを削除するには、以下の手順を実施します。

※他のアドレス帳の項目データには影響しません。

- 1 「組織階層情報アドレス帳設定」画面から、任意のアドレス帳の編集画面を開き、「カスタム項目の設定」タブを開きます。
 - 各項目の説明
 - ・ 有効

カスタム項目の有効・無効を設定します。

「無効」(チェックがオフ)の場合のみ、「データ消去」が使用可能です。
 - ・ 内部列名(UserItem01~15)

カスタム項目の判別名です。システムで使用するため、名称を変更できません。

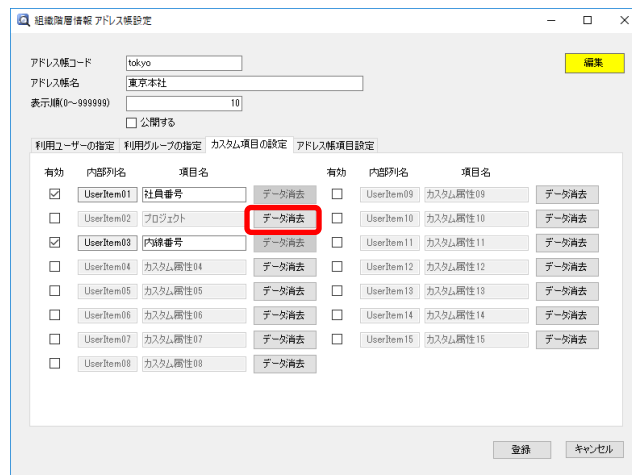
CSV インポートを利用する場合、登録列を特定するために参照します。
 - ・ 項目名

カスタム項目の表示名を設定します。(最大 25 文字)

項目内のデータの消去後も、項目名は初期化されません。
 - ・ データ消去

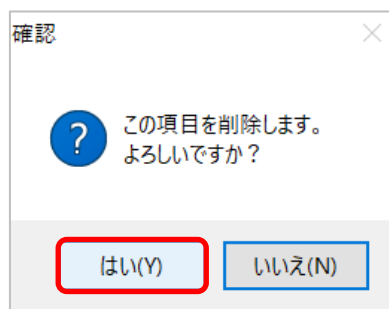
カスタム項目に紐づく列内のデータを一括削除します。

項目が「有効」(チェックがオン)の場合、「データ消去」は使用できません。



[画面 40]

- 2 データを削除したい項目で、「データ消去」を選択します。
- 3 削除確認メッセージが表示されるので、「はい」を選択し、項目に紐づく列のデータを一括削除します。
「いいえ」を選択すると、項目および登録データを消去せずにカスタム項目の設定画面に戻ります。



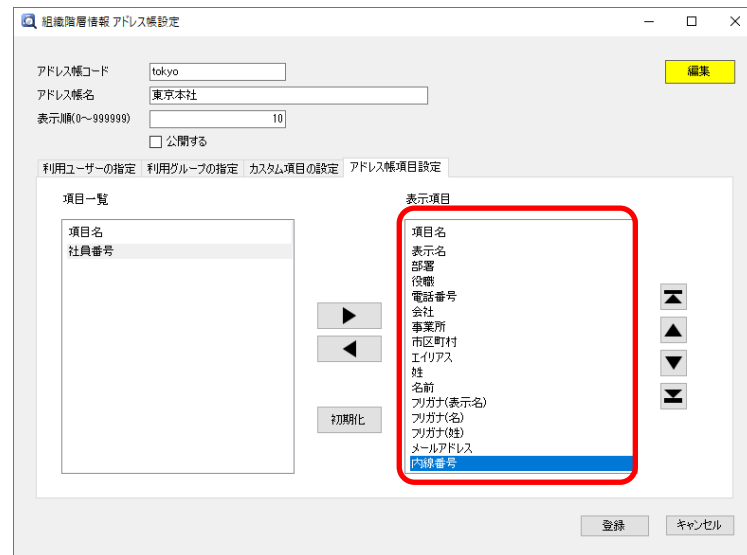
[画面 41]

- 4 「キャンセル」を選択し、カスタム項目の設定画面を閉じます。

4.4.3 アドレス帳の表示項目

アドレス帳に表示する項目数および表示順を設定するには、以下の手順を実施します。

- 1 「組織階層情報アドレス帳設定」画面から、任意のアドレス帳の編集画面を開き、「アドレス帳項目設定」タブを開きます。



[画面 42]

- 2 「項目一覧」欄から表示したい項目を選択し、ボタン選択で「表示項目」欄に移動します。
- 3 各項目を設定し、「登録」を選択します。

- 各項目の説明

- ・ 項目一覧

アドレス帳に表示可能な項目名を一覧表示します。

※カスタム項目は、「有効」設定の項目名のみ表示されます。「無効」の項目名は表示されません。

- ・ 表示項目

アドレス帳に表示する項目を設定します。表示項目が0件の場合、登録できません。

- ・ ボタン操作

：選択した項目を、「項目一覧」から「表示項目」に移動します。

：選択した項目を、「表示項目」から「項目一覧」に移動します。


「初期化」：変更内容をすべて破棄し、初期設定の状態に戻します。


カスタム項目はすべて「項目一覧」に移動されます。


- ・ 列の表示順


表示する項目の並び順を設定します。

ユーザー画面では、上位に設定した順に左から表示します。

：最上位に移動します。ユーザー表示では最左端に表示します。

：ひとつ上の項目と表示順が入れ替わります。

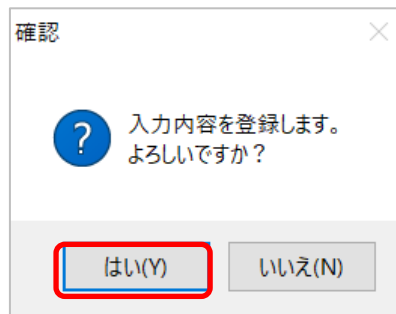
：ひとつ下の項目と表示順が入れ替わります。

：最下位に移動します。ユーザー表示では最右端に表示します。



[画面 43]

- 4 確認メッセージが表示されるので、「はい」を選択します。
- 5 アドレス帳に設定が保存されます。



[画面 44]

4.5 複数アドレス帳に関する機能

複数アドレス帳を使用することで、一つの階層情報だけでなく、複数の階層情報を管理することが可能です。

アドレス帳ごとに、表示項目および利用可能ユーザーを設定することが可能です。

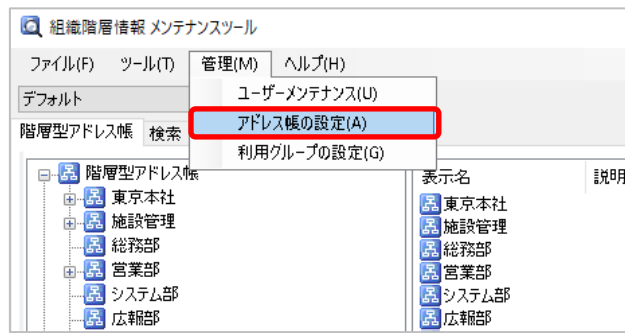
カスタム項目の設定方法については、前述「4.4.カスタム項目に関する機能」をご参照ください。

4.5.1 アドレス帳の設定

複数アドレス帳を設定するには、以下の手順を実施します。

初期状態では、「デフォルト」のアドレス帳のみ表示されています。

- 1 「管理」メニューを開き、「アドレス帳の設定」を選択します。



[画面 45]

- 2 「組織階層情報アドレス帳設定」画面が開くので、各アドレス帳を設定します。

- 各項目の説明

- ・ ボタン操作

「新規作成」：新しくアドレス帳を作成します。

「編集」：選択したアドレス帳の設定を編集します。

「削除」：選択したアドレス帳を削除します。

「閉じる」：編集を終了し、設定画面を閉じます。

- ・ コード

アドレス帳の判別コードを表示します。(最大半角 20 文字)

コマンド操作の際、登録先アドレス帳を特定するために参照します。

- ・ アドレス帳名

アドレス帳の名前を表示します。(最大 70 文字)

- ・ 表示順

アドレス帳の表示順を設定します。(0~999999)

表示順の数値の大きいものから降順に表示されます。

- ・ 公開する

「公開」(チェックがオン)：一般ユーザーに公開するアドレス帳です。

「非公開」(チェックがオフ)：一般ユーザーに公開しないアドレス帳です。管理者権限を持つユーザーのみ閲覧可能です。

また、コマンドから公開/非公開を切り替えることができます。コマンド操作については、後述の「(1)公開/非公開切り替えコマンド」をご参照ください。

- ・ 利用ユーザー指定

「指定あり」(チェックがオン)：特定のユーザーのみ利用可能なアドレス帳です。管理者権限を持つユーザーも閲覧可能です。

「指定なし」(チェックがオフ)：全ユーザーが利用可能なアドレス帳です。

- ・ 利用グループ指定

「指定あり」(チェックがオン)：特定のグループのみ利用可能なアドレス帳です。管理者権限を持つユーザーも閲覧可能です。

「指定なし」(チェックがオフ)：全グループが利用可能なアドレス帳です。

コード	アドレス帳名	表示順	公開する	利用ユーザー指定	利用グループ指定
	デフォルト	100	✓		✓
tokyo	東京本社	5	✓		
osaka	大阪本社	4		✓	
nagoya	名古屋支店	3	✓	✓	

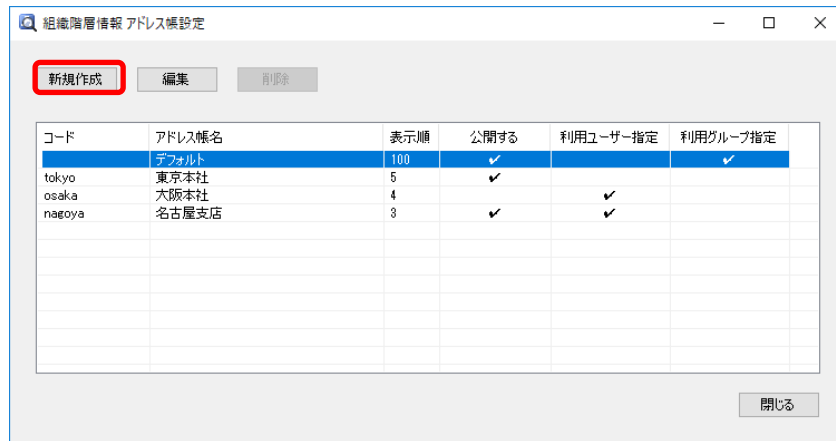
[画面 46]

4.5.2 新規作成

新しくアドレス帳を作成します。

各設定内容は、作成後に「変更」メニューから変更可能です。

- 1 「組織階層情報アドレス帳設定」画面を開き、「新規作成」を選択します。



[画面 47]

- 2 アドレス帳設定画面の「利用ユーザーの指定」タブが開くので、各項目に必要な情報を入力します。

● 各項目の説明

• ㄣ — ㄣ

アドレス帳の判別コードを設定します。(最大半角 20 文字)

半角英数で指定します。他のアドレス帳で使用中のコードは指定できません。

コマンド操作の際、登録先アドレス帳を特定するために参照します。

・ アドレス帳名

ユーザーに表示するアドレス帳の名前を設定します。(最大 70 文字)

複数のアドレス帳に同じ名前を指定することができます。

- 表示順

アドレス帳の表示順を設定します。(0~999999)

表示順の数値の大きいものから降順に表示されます。

表示順が同じアドレス帳がある場合、コードの値の昇順で表示されます。

- ・ 公開する

「公開」(チェックがオン): ユーザーに公開します。

「非公開」(チェックがオフ): ユーザーに公開しません。新規作成時の初期値は「非公開」です。

※コマンドから公開/非公開を切り替えることができます。コマンド操作については、後述の「(1)公開/非公開切り替えコマンド」をご参照ください。

- ・ 利用ユーザーを指定する

「指定あり」(チェックがオン):利用可能なユーザーのメールアドレスを指定可能です。

「指定なし」(チェックがオフ): テキストボックスは編集できません。

テキストボックスに利用ユーザーを複数指定する場合、メールアドレスの後に改行を入力してください。

300 文字以上のメールアドレスは指定できません。

- ・ ボタン操作

「CSV インポート」：参照先 CSV ファイルから、利用ユーザー情報をインポートできます。

「CSV エクスポート」：設定されている利用ユーザー情報を、CSV ファイル形式でエクスポートできます。

「登録」：編集した設定内容のアドレス帳を新規作成します。

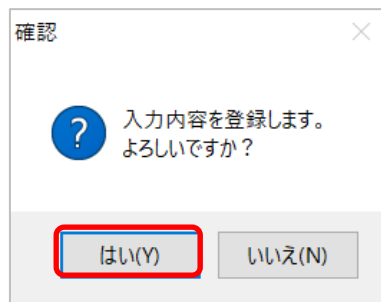
「キャンセル」：編集を終了し、設定画面を閉じます。

[画面 48]

- 利用可能なグループを指定する場合、「利用グループの指定」タブを選択し、利用するグループ名のチェックをオンにします。

[画面 49]

- 「登録」を選択します。
- 確認メッセージが表示されるので「はい」を選択し、新しいアドレス帳を作成します。

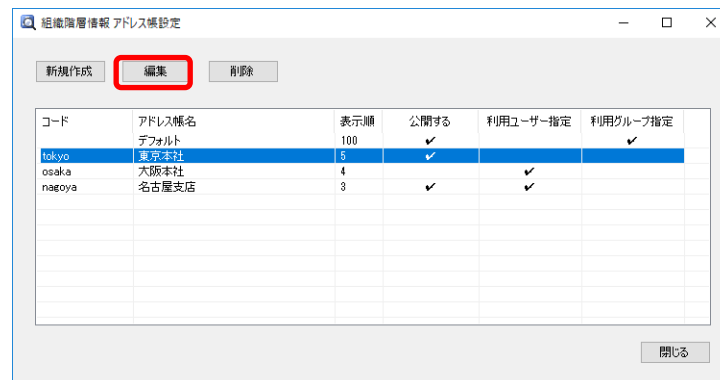


[画面 50]

4.5.3 編集

アドレス帳の設定を変更します。

- 1 「組織階層情報アドレス帳設定」画面から任意のアドレス帳を選択し、「編集」を選択します。



[画面 51]

- 2 アドレス帳設定画面の「利用ユーザーの指定」タブが開くので、各項目に必要な情報を入力します。

- 各項目の説明

- ・ コード

アドレス帳の判別コードを設定します。(最大半角 20 文字)

半角英数で指定します。他のアドレス帳で使用中のコードは指定できません。

コマンド操作の際、登録先アドレス帳を特定するために参照します。

- ・ アドレス帳名

ユーザーに表示するアドレス帳の名前を設定します。(最大 70 文字)

複数のアドレス帳に同じ名前を指定することができます。

- ・ 表示順

アドレス帳の表示順を設定します。(0~999999)

表示順の数値の大きいものから降順に表示されます。

表示順が同じアドレス帳がある場合、コードの値の昇順で表示されます。

- ・ 公開する

「公開」(チェックがオン): ユーザーに公開します。

「非公開」(チェックがオフ): ユーザーに公開しません。新規作成時の初期値は「非公開」です。

※コマンドから公開/非公開を切り替えることができます。コマンド操作については、後述の「(1)公開/非公開切り替えコマンド」をご参照ください。

- ・ 利用ユーザーを指定する

「指定あり」(チェックがオン): 利用可能なユーザーのメールアドレスを指定可能です。

「指定なし」(チェックがオフ): テキストボックスは編集できません。

テキストボックスに利用ユーザーを複数指定する場合、メールアドレスの後に改行を入力してください。

300 文字以上のメールアドレスは指定できません。

- ・ ボタン操作

「CSV インポート」: 参照先 CSV ファイルから利用ユーザー情報をインポートできます。

「CSV エクスポート」: 設定されている利用ユーザー情報を CSV ファイル形式でエクスポートできます。

「登録」: 設定した内容でアドレス帳を更新します。

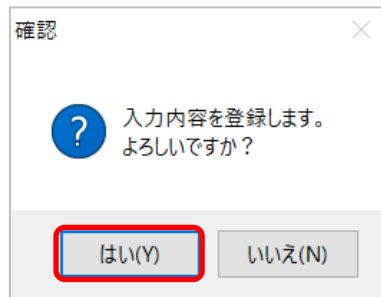
「キャンセル」: 編集を終了し、設定画面を閉じます。

[画面 52]

- 3 利用可能なグループを指定する場合、「利用グループの指定」タブを選択し、利用するグループ名のチェックをオンにします。

[画面 53]

- 4 「登録」を選択します。
- 5 確認メッセージが表示されるので「はい」を選択し、アドレス帳の設定を更新します。



[画面 54]

4.5.4 一括編集

コマンドラインから複数アドレス帳の公開/非公開を切り替えることが可能です。

また、利用ユーザー情報を CSV 形式のファイルから一括で編集することが可能です。

※CSV インポート・エクスポートの CSV フォーマットについては、別紙「CSV フォーマットガイド」をご参照ください。

(1) 公開/非公開切り替えコマンド

各アドレス帳の判別コード(AddressBookCode)を確認後、以下の手順を実施します。

※パラメータオプション(引数)については、Appendices の「複数アドレス帳の公開/非公開切り替え」をご参照ください。

- 1 コマンドプロンプトを起動します。
- 2 以下のコマンドを実行します。
 - コマンド

cd C:\Program Files (x86)\bbsystem\HierarchicalAddressBookMaintenanceTool

3 以下のコマンドを実行します。

● 有効化コマンド

※コマンドは一行で入力します。

- ・ コンソール表示ありの場合

HABAddressBookOnOffChgTool.exe /N /C <アドレス帳コード> /U <ユーザーID>
/P <パスワード>

- ・ コンソール表示なしの場合

HABAddressBookOnOffChgToolNoConsole.exe /N /C <アドレス帳コード> /U <ユーザーID> /P <パスワード>

* 入力例

- ・ コンソール表示ありの場合

HABAddressBookOnOffChgTool.exe /N /C Tokyo /U testuser@example.com /P
password

- ・ コンソール表示なしの場合

HABAddressBookOnOffChgToolNoConsole.exe /N /C Tokyo /U
testuser@example.com /P password

● 無効化コマンド

※コマンドは一行で入力します。

- ・ コンソール表示ありの場合

HABAddressBookOnOffChgTool.exe /F /C <アドレス帳コード> /U <ユーザーID>
/P <パスワード>

- ・ コンソール表示なしの場合

HABAddressBookOnOffChgToolNoConsole.exe /F /C <アドレス帳コード> /U <ユーザーID> /P <パスワード>

* 入力例

- ・ コンソール表示ありの場合

HABAddressBookOnOffChgTool.exe /F /C Tokyo /U testuser@example.com /P
password

- ・ コンソール表示なしの場合

HABAddressBookOnOffChgToolNoConsole.exe /F /C Tokyo /U
testuser@example.com /P password

「デフォルト」アドレス帳のアドレス帳コードは「00000000000000000000」です。

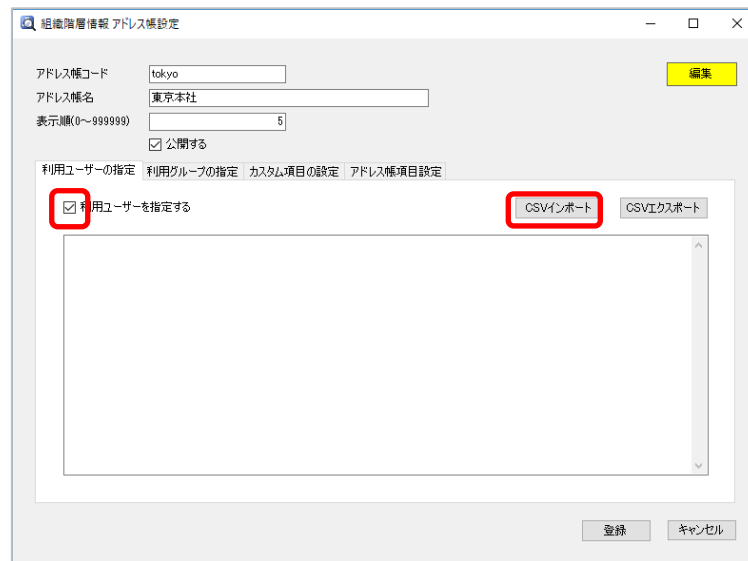
(コ マ ン ド 例) HABAddressBookOnOffChgTool.exe /N /C 00000000000000000000 /U
testuser@example.com /P password

(2) 利用ユーザー情報 CSV インポート

各アドレス帳のログインユーザー情報を CSV 形式のファイルからインポートします。

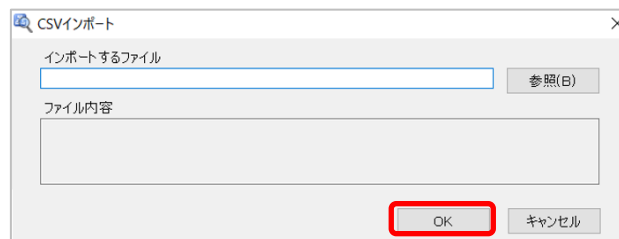
また、インポートには事前に「ユーザーメンテナンスツール」からエクスポートした CSV ファイルを利用可能です。ログインユーザーID のエクスポート手順は「4.9.7CSV に関する機能」の「(2)ユーザーID 情報エクスポート」をご参照ください。

- 1 任意のアドレス帳の編集画面から「利用ユーザーの指定」タブを開きます。
- 2 「利用ユーザーを指定する」のチェックをオンにし、「CSV インポート」を選択します。
※チェックがオフの場合、利用ユーザー情報を編集できません。



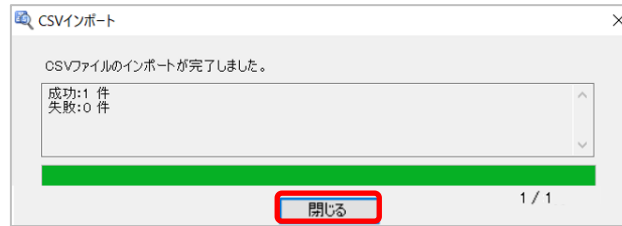
[画面 55]

- 3 CSV インポート画面が開くので、「参照」からインポートする CSV ファイルを選択し、「開く」を選択します。
- 4 対象のファイルパスが入力されるので、「OK」を選択します。



[画面 56]

- 5 成功・失敗件数を確認し、「閉じる」を選択します。

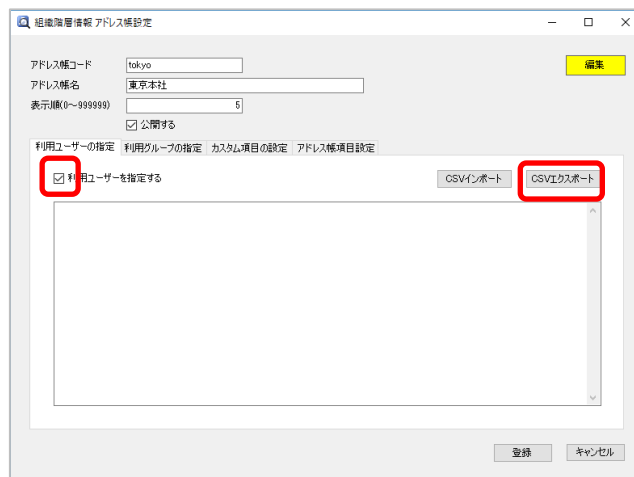


[画面 57]

(3) 利用ユーザー情報 CSV エクスポート

アドレス帳に登録されているログインユーザー情報を CSV 形式のファイルとしてエクスポートします。

- 1 任意のアドレス帳の編集画面から「利用ユーザーの指定」タブを開きます。
- 2 「利用ユーザーを指定する」のチェックをオンにし、「CSV エクスポート」を選択します。
※チェックがオフの場合、利用ユーザー情報を編集できません。



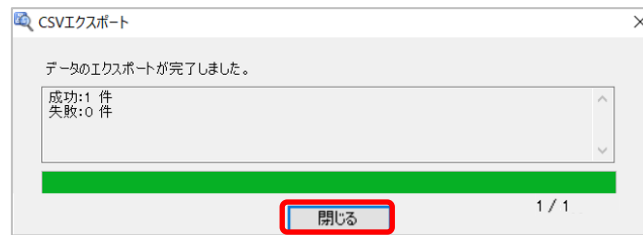
[画面 58]

- 3 CSV エクスポート画面が開くので、「参照」から CSV ファイルをエクスポートする場所を選択し、「登録」を選択します。
- 4 対象のファイルパスが入力されるので、「OK」を選択します。



[画面 59]

- 5 成功・失敗件数を確認し、「閉じる」を選択します。
- 6 指定した場所に CSV ファイルが作成されます。



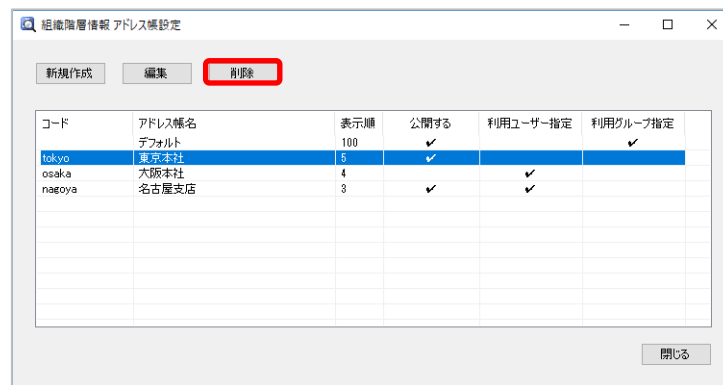
[画面 60]

4.5.5 削除

登録したアドレス帳を削除します。

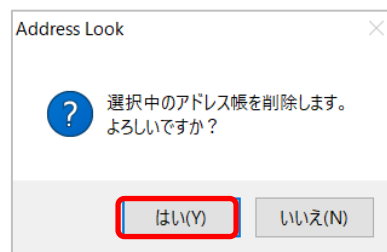
※「デフォルト」のアドレス帳は削除できません。

- 1 「組織階層情報アドレス帳設定」画面から任意のアドレス帳を選択し、「削除」を選択します。



[画面 61]

- 2 削除確認メッセージが表示されるので「はい」を選択し、アドレス帳を削除します。
「いいえ」を選択すると、アドレス帳を削除せず、アドレス帳設定画面に戻ります。



[画面 62]

4.6 利用グループに関する機能

アドレス帳を利用可能なユーザーもしくはアドレス帳を利用しないユーザーをグループで管理することが可能です。

アドレス帳が公開されていない場合は、利用グループを設定してもアドレス帳は表示されません。

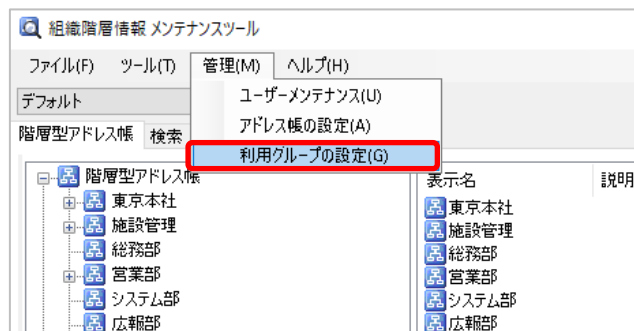
※管理者権限を持つユーザーは、アドレス帳の公開有無や利用ユーザー・利用グループの指定に関わらず全てのアドレス帳が公開されます。

※アドレス帳を利用可能なユーザーのグループと、アドレス帳を利用しないユーザーのグループとで、同一の一般ユーザーと同一のアドレス帳が指定されていた場合、アドレス帳を利用しないユーザーのグループが優先され、アドレス帳は公開されません。

4.6.1 利用グループの設定

グループを設定するには、以下の手順を実施します。

- 1 「管理」メニューを開き、「利用グループの設定」を選択します。



[画面 63]

- 2 「組織階層情報利用グループ一覧」画面が開くので、各グループを設定します。

- 各項目の説明

- ・ ボタン操作

「新規作成」：新しくグループを作成します。

「編集」：選択したグループの設定を編集します。

「削除」：選択したグループを削除します。

「閉じる」：編集を終了し、一覧画面を閉じます。

- ・ グループ名

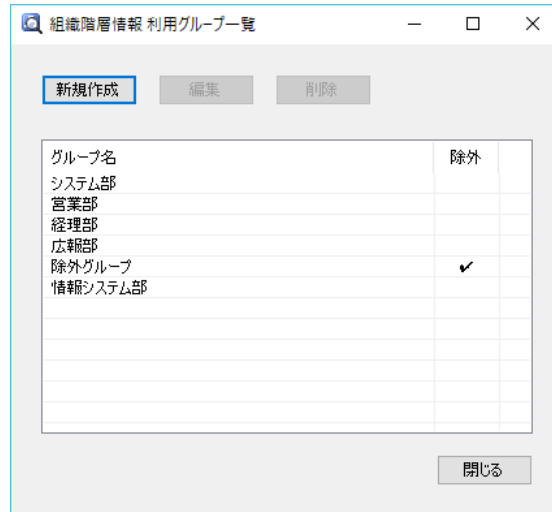
グループの名前を表示します。

- ・ 除外

「利用」(チェックがオフ)：アドレス帳を利用するユーザーのグループです。

「除外」(チェックがオン)：アドレス帳を利用しないユーザーのグループです。

※除外グループと利用グループとで同一の一般ユーザーと同一のアドレス帳が指定されていた場合、除外グループが優先され、アドレス帳は利用できません。



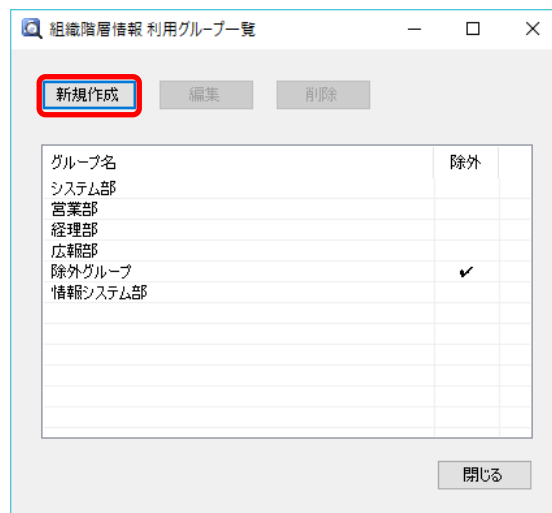
[画面 64]

4.6.2 新規作成

新しくグループを作成します。

各設定内容は、作成後に「編集」メニューから変更可能です。

- 1 「組織階層情報利用グループ一覧」画面を開き、「新規作成」を選択します。



[画面 65]

- 2 利用グループ設定画面の「利用ユーザーの指定」タブが開くので、各項目に必要な情報を入力します。

- 各項目の説明

- ・ グループ名

ユーザーに表示するグループの名前を設定します。(最大 50 文字)

- ・ 除外する

「利用」(チェックがオフ): 指定されたアドレス帳をユーザーに公開します。新規作成時の初期値は「利用」です。

「除外」(チェックがオン): 指定されたアドレス帳をユーザーに公開しません。

- ・ 利用ユーザーの指定

グループに所属する利用可能なユーザーのメールアドレスを指定可能です。

テキストボックスに利用ユーザーを複数指定する場合、メールアドレスの後に改行を入力してください。

300 文字以上のメールアドレスは指定できません。

- ・ ボタン操作

「CSV インポート」: 参照先 CSV ファイルから利用ユーザー情報をインポートできます。

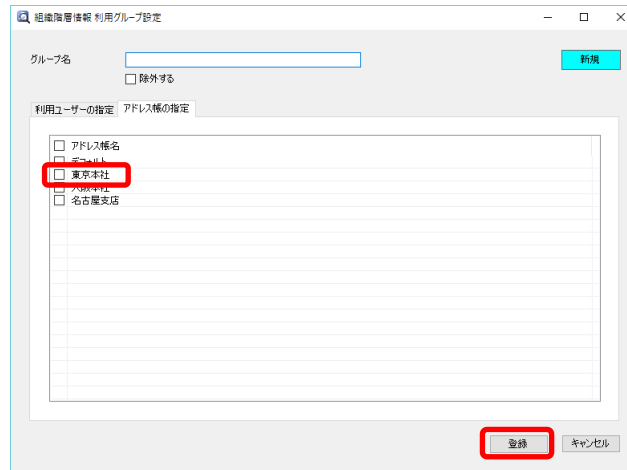
「CSV エクスポート」: 設定されている利用ユーザー情報を CSV ファイル形式でエクスポートできます。

「登録」: 編集した設定内容のグループを新規作成します。

「キャンセル」: 編集を終了し、設定画面を閉じます。

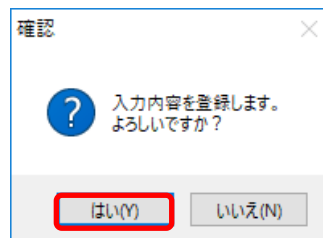
[画面 66]

- 3 利用可能なアドレス帳を指定する場合、「アドレス帳の指定」タブを選択し、利用するアドレス帳のチェックをオンにします。



[画面 67]

- 4 「登録」を選択します。
- 5 確認メッセージが表示されるので「はい」を選択し、新しいグループを作成します。

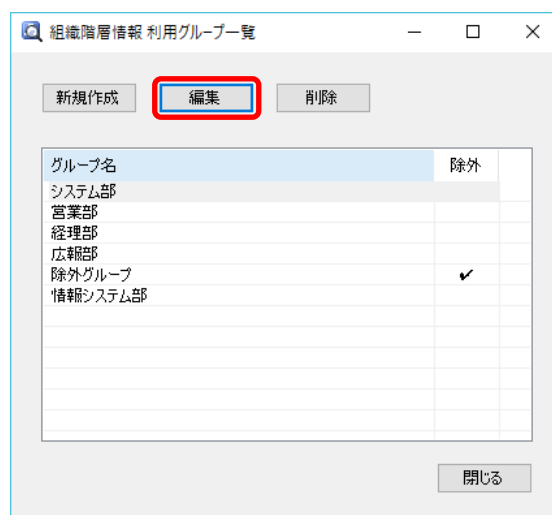


[画面 68]

4.6.3 編集

グループの設定を変更します。

- 1 「組織階層情報利用グループ一覧」画面から任意の利用グループを選択し、「編集」を選択します。



[画面 69]

- 2 利用グループ設定画面の「利用ユーザーの指定」タブが開くので、各項目に必要な情報を入力します。

- 各項目の説明

- ・ グループ名

ユーザーに表示するグループの名前を設定します。(最大 50 文字)

- ・ 除外する

「利用」(チェックがオフ): 指定されたアドレス帳をユーザーに公開します。

「除外」(チェックがオン): 指定されたアドレス帳をユーザーに公開しません。

- ・ テキストボックス

グループに所属する利用可能なユーザーのメールアドレスを指定可能です。

テキストボックスに利用ユーザーを複数指定する場合、メールアドレスの後に改行を入力してください。

300 文字以上のメールアドレスは指定できません。

- ・ ボタン操作

「CSV インポート」: 参照先 CSV ファイルから利用ユーザー情報をインポートできます。

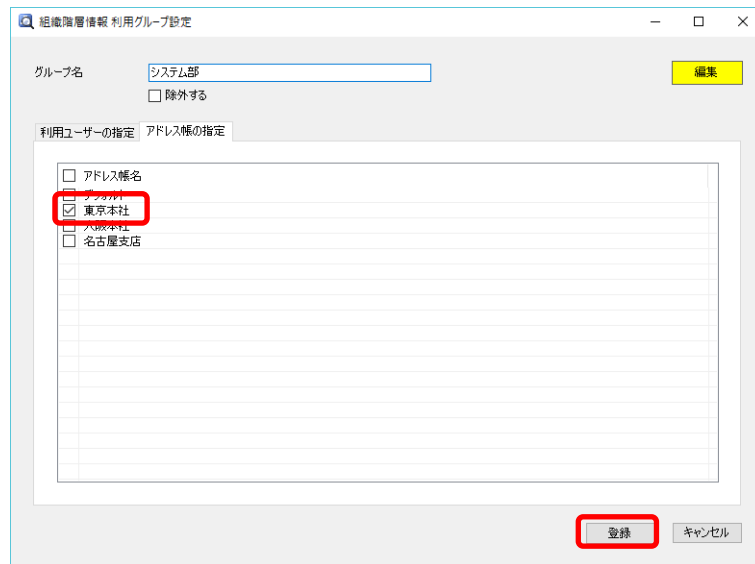
「CSV エクスポート」: 設定されている利用ユーザー情報を CSV ファイル形式でエクスポートできます。

「登録」: 編集した設定内容のグループを新規作成します。

「キャンセル」: 編集を終了し、設定画面を閉じます。

[画面 70]

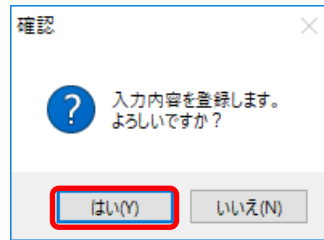
- 3 利用可能なアドレス帳を指定する場合、「アドレス帳の指定」タブを選択し、利用するアドレス帳のチェックをオンにします。



[画面 71]

- 4 「登録」を選択します。

- 5 確認メッセージが表示されるので「はい」を選択し、グループの設定を更新します。



[画面 72]

4.6.4 一括編集

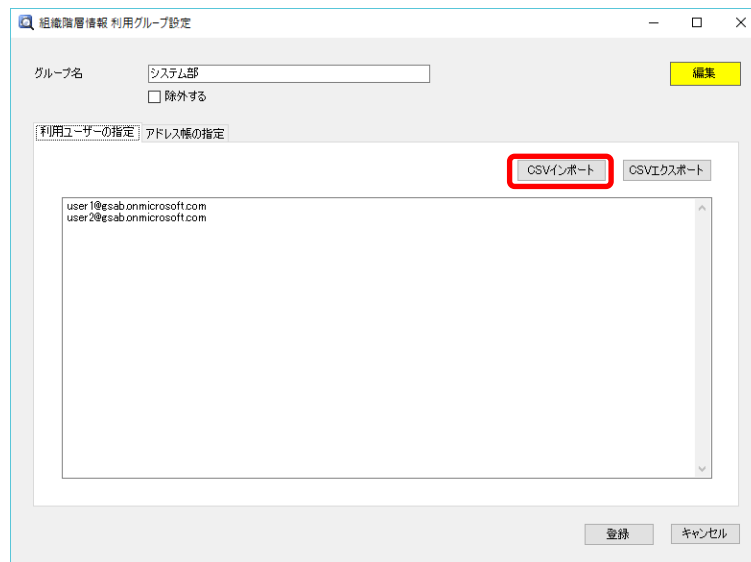
利用ユーザー情報を CSV 形式のファイルから一括で編集することが可能です。

※CSV インポート・エクスポートの CSV フォーマットについては、別紙「CSV フォーマットガイド」をご参照ください。

(1) 利用グループのユーザー情報 CSV インポート

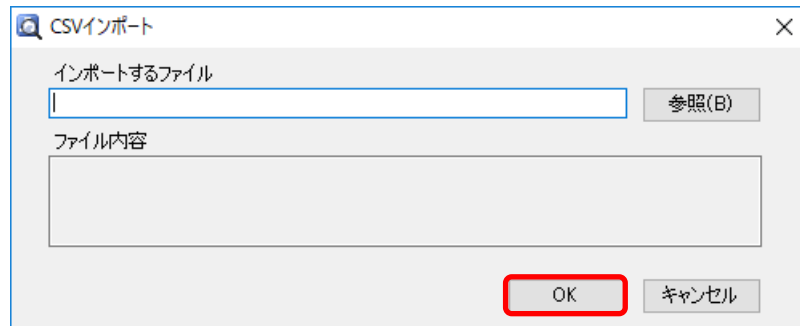
各利用グループのログインユーザー情報を CSV 形式のファイルからインポートします。

- 1 任意の利用グループの編集画面から「利用ユーザーの指定」タブを開きます。
- 2 「CSV インポート」を選択します。



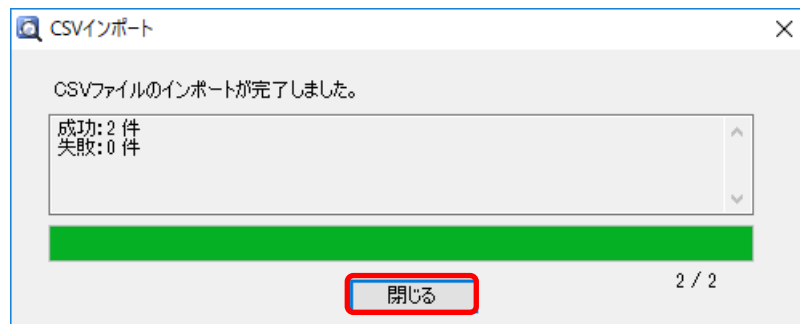
[画面 73]

- 3 CSV インポート画面が開くので、「参照」からインポートする CSV ファイルを選択し、「開く」を選択します。
- 4 対象のファイルパスが入力されるので、「OK」を選択します。



[画面 74]

- 5 成功・失敗件数を確認し、「閉じる」を選択します。

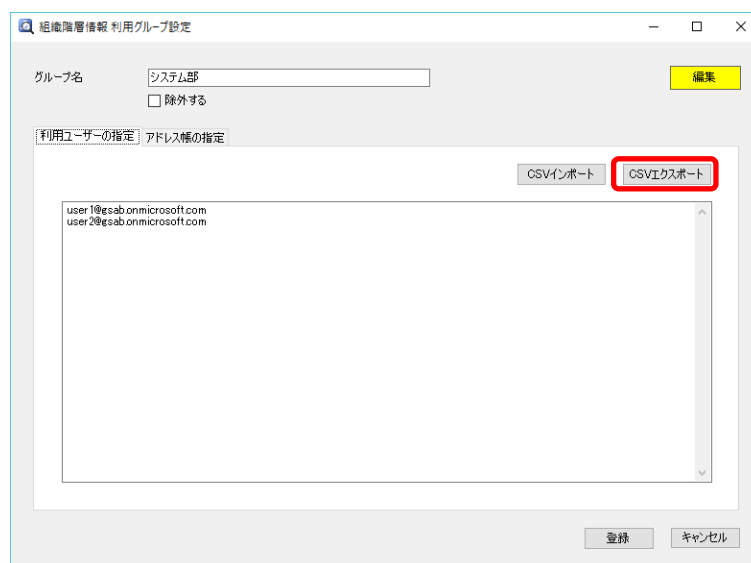


[画面 75]

(2) 利用グループのユーザー情報 CSV エクスポート

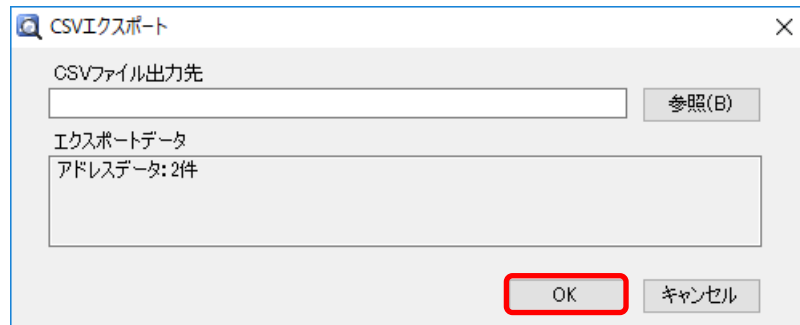
利用グループに登録されているログインユーザー情報をCSV形式のファイルとしてエクスポートします。

- 1 任意の利用グループの編集画面から「利用ユーザーの指定」タブを開きます。
- 2 「CSV エクスポート」を選択します。



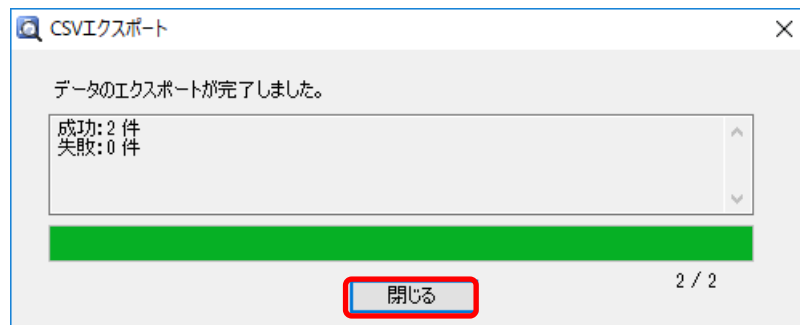
[画面 76]

- 3 CSV エクスポート画面が開くので、「参照」から CSV ファイルをエクスポートする場所を選択し、「登録」を選択します。
- 4 対象のファイルパスが入力されるので、「OK」を選択します。



[画面 77]

- 5 成功・失敗件数を確認し、「閉じる」を選択します。
- 6 指定した場所に CSV ファイルが作成されます。

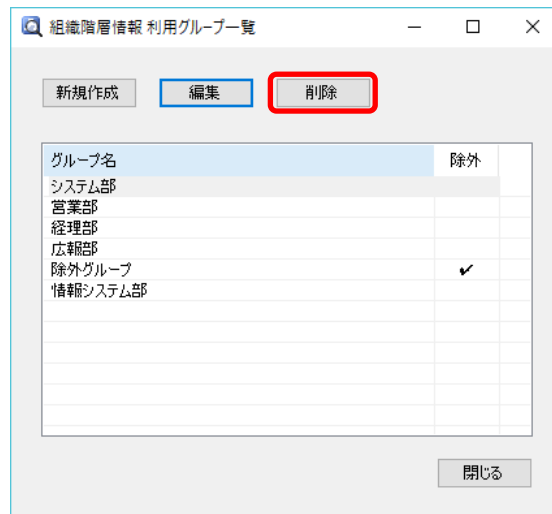


[画面 78]

4.6.5 削除

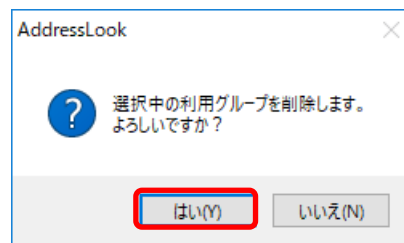
登録したグループを削除します。

- 1 「組織階層情報利用グループ一覧」画面から任意の利用グループを選択し、「削除」を選択します。



[画面 79]

- 2 削除確認メッセージが表示されるので「はい」を選択し、利用グループを削除します。
「いいえ」を選択すると、利用グループを削除せず、利用グループ一覧画面に戻ります。



[画面 80]

4.6.6 コマンド実行

CSV インポート・エクスポートをコマンドラインから実行します。

※CSV インポート・エクスポートの CSV フォーマットについては、別紙「CSV フォーマットガイド」をご参照ください。

※パラメータオプション(引数)については、Appendices の「利用グループ情報の CSV インポート・エクスポート」をご参照ください。

(1) 接続設定

インポートエクスポートツールの設定ファイル (HABAddressBookGroupImportTool.exe.config) をテキストエディタで開き、サービス URL、ログファイルの出力先、サービスの認証方法を指定します。

- ファイルパス(既定インストールの場合)
C:¥Program Files (x86)¥bbsystem¥HierarchicalAddressBookMaintenanceTool

キー名<key>	記入例<value>	説明
ServiveURL	https://www.addresslook.net/svc2/	ご案内メール等に記載されたサービス URL を指定します。
LogPath	C:¥Logs¥HABAddressBookGroupImportTool.log	ログファイルの出力先を指定します。
Authentication	1	サービスの認証方法を指定します。 1:フォーム認証/2:Windows 認証
Proxy_Use	1	AddressLook サーバーへのアクセスに認証 Proxy を利用するか指定します。 1:認証 Proxy を利用する 0:認証 Proxy を利用しない
※以下の項目は「1：認証 Proxy を利用する」の場合のみ指定します。		
Proxy_Address	proxyserver.domain.jp	プロキシサーバーのアドレスを指定します。省略した場合、設定を自動的に検出します。
Proxy_Port	8080	プロキシサーバーのアドレスを指定した場合に、ポートを指定します。
Proxy_Authentication	2	プロキシサーバーの認証方式を指定します。 1:認証なし 2:現在のユーザーで認証する 3:認証情報を指定する
Proxy_UserName	Domain¥username	認証方式が「3：認証情報を指定する」の場合、使用するユーザーID を指定します。
Proxy_Password	password	認証方式が「3：認証情報を指定する」の場合、使用するパスワードを指定します。

(2) 利用グループ CSV インポート実行コマンド

設定ファイルを確認後、以下の手順を実施します。

- 1 コマンドプロンプトを起動します。
- 2 以下のコマンドを実行します。
 - コマンド
cd C:¥Program Files (x86)¥bbsystem¥HierarchicalAddressBookMaintenanceTool
- 3 以下のコマンドを実行します。
 - コマンド
※コマンドは一行で入力します。
・コンソール表示ありの場合
HABAddressBokGroupImportTool.exe /I /F <CSV ファイルパス> /U <ユーザーID>

/P <パスワード>

- ・ コンソール表示なしの場合

HABAddressBokGroupImportToolNoConsole.exe /I /F <CSV ファイルパス> /U <ユーザーID> /P <パスワード>

＊ 入力例

- ・ コンソール表示ありの場合

HABAddressBokGroupImportTool.exe /I /F C:¥data¥importGroup.csv /U testuser@example.com /P password

- ・ コンソール表示なしの場合

HABAddressBokGroupImportToolNoConsole.exe /I /F C:¥data¥importGroup.csv /U testuser@example.com /P password

4 以下のコマンドを入力し、実行します。戻り値を確認します。

- コマンド

echo %ERRORLEVEL%

戻り値	説明
0	インポートの実行に成功しました。
1	実行時にエラーが発生しています。 ※エラーの詳細は、出力されたログの内容を確認してください。

(3) 利用グループ CSV エクスポート 実行コマンド

設定ファイルに確認後、以下の手順を実施します。

1 コマンドプロンプトを起動します。

2 以下のコマンドを実行します。

- コマンド

cd C:¥Program Files (x86)¥bbsystem¥HierarchicalAddressBookMaintenanceTool

3 以下のコマンドを実行します。

- コマンド

※コマンドは一行で入力します。

- ・ コンソール表示ありの場合

HABAddressBokGroupImportTool.exe /E /F <CSV ファイルパス> /U <ユーザーID> /P <パスワード>

- ・ コンソール表示なしの場合

HABAddressBokGroupImportToolNoConsole.exe /E /F <CSV ファイルパス> /U <ユーザーID> /P <パスワード>

ーザーID> /P <パスワード>

＊ 入力例

- ・ コンソール表示ありの場合

HABAddressBokGroupImportTool.exe /E /F C:¥data¥exportGroup.csv /U

testuser@example.com /P password

- ・ コンソール表示なしの場合

HABAddressBokGroupImportToolNoConsole.exe /E /F C:¥data¥exportGroup.csv /U

testuser@example.com /P password

- 4 以下のコマンドを入力し、実行します。戻り値を確認します。

- コマンド

echo %ERRORLEVEL%

戻り値	説明
0	エクスポートの実行に成功しました。
1	実行時にエラーが発生しています。 ※エラーの詳細は、出力されたログの内容を確認してください。

(4) 利用グループのユーザー情報 CSV インポート実行コマンド

設定ファイルに確認後、以下の手順を実施します。

- 1 コマンドプロンプトを起動します。

- 2 以下のコマンドを実行します。

- コマンド

cd C:¥Program Files (x86)¥bbsystem¥HierarchicalAddressBookMaintenanceTool

- 3 以下のコマンドを実行します。

- コマンド

※コマンドは一行で入力します。

- ・ コンソール表示ありの場合

HABAddressBokGroupImportTool.exe /UI /F <CSV ファイルパス> /U <ユーザーID>

/P <パスワード>

- ・ コンソール表示なしの場合

HABAddressBokGroupImportToolNoConsole.exe /UI /F <CSV ファイルパス> /U <

ユーザーID> /P <パスワード>

＊ 入力例

- ・ コンソール表示ありの場合
HABAddressBokGroupImportTool.exe /UI /F C:¥data¥importGroupUsers.csv /U
testuser@example.com /P password
- ・ コンソール表示なしの場合
HABAddressBokGroupImportToolNoConsole.exe /UI /F
C:¥data¥importGroupUsers.csv /U testuser@example.com /P password

4 以下のコマンドを入力し、実行します。戻り値を確認します。

- コマンド
echo %ERRORLEVEL%

戻り値	説明
0	インポートの実行に成功しました。
1	実行時にエラーが発生しています。 ※エラーの詳細は、出力されたログの内容を確認してください。

(5) 利用グループのユーザー情報 CSV エクスポート実行コマンド

設定ファイルに確認後、以下の手順を実施します。

- 1 コマンドプロンプトを起動します。
- 2 以下のコマンドを実行します。
 - コマンド
cd C:¥Program Files (x86)¥bbsystem¥HierarchicalAddressBookMaintenanceTool
- 3 以下のコマンドを実行します。
 - コマンド
※コマンドは一行で入力します。
 - ・ コンソール表示ありの場合
HABAddressBokGroupImportTool.exe /UE /F <CSV ファイルパス> /U <ユーザーID> /P <パスワード>
 - ・ コンソール表示なしの場合
HABAddressBokGroupImportToolNoConsole.exe /UE /F <CSV ファイルパス> /U <ユーザーID> /P <パスワード>

* 入力例

- ・ コンソール表示ありの場合
HABAddressBokGroupImportTool.exe /UE /F C:¥data¥exportGroupUsers.csv /U
testuser@example.com /P password

・ コンソール表示なしの場合
HABAddressBokGroupImportToolNoConsole.exe /UE /F
C:¥data¥exportGroupUsers.csv /U testuser@example.com /P password

4 以下のコマンドを入力し、実行します。戻り値を確認します。

- コマンド
echo %ERRORLEVEL%

戻り値	説明
0	エクスポートの実行に成功しました。
1	実行時にエラーが発生しています。 ※エラーの詳細は、出力されたログの内容を確認してください。

4.7 エラーログ出力

メンテナンスツールの動作中にエラーが発生した場合、以下のログファイルにエラーメッセージが出力されます。

4.7.1 公開/非公開切り替えコマンド

HABAddressBookOnOffChgTool.exe コマンド実行時のエラーを以下に出力します。

※出力先は、コマンドラインの引数(/L)または設定ファイルより変更することが可能です。

- 出力場所
C:¥Logs¥bbsAddressBookOnOff.log

4.7.2 利用ユーザー情報

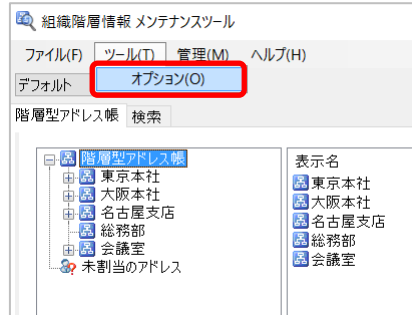
ログインユーザー情報 CSV インポート・エクスポート実行時のエラーを以下に出力します。

- 出力場所 1(メンテナンスツールより実行した場合)
※AppData フォルダは、既定の設定では隠しフォルダになっています。
C:¥Users¥<User>¥AppData¥Roaming¥BBS.HierarchicalAddressBookMaintenanceTool¥CSVImportExport.log
- 出力場所 2(コマンドラインより実行した場合)
C:¥Logs¥bbshabcsv.log

4.8 オプション

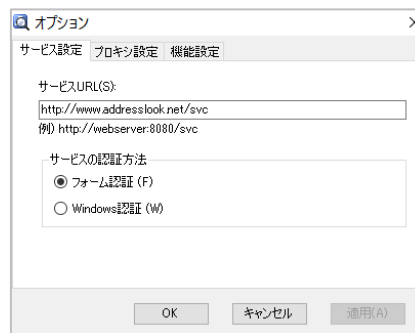
メンテナンスツールのサービス接続設定方法について説明します。

- 1 メンテナンスツールの「ツール」メニューから「オプション」を選択します。



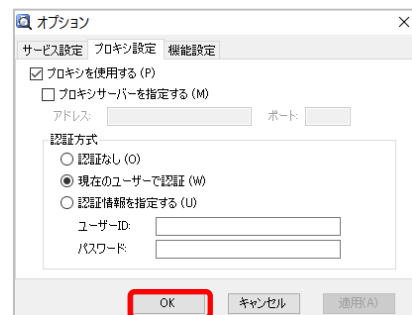
[画面 81]

- 2 オプション画面の「サービス設定」タブが開くので、各項目に必要な情報を入力します。
※設定項目については、前述「3.3 初期設定」をご参照ください。



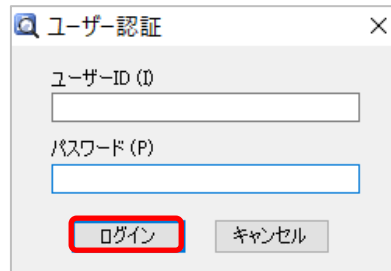
[画面 82]

- 3 プロキシサーバーを利用されている場合のみ、「プロキシ設定」タブより環境に合わせた設定を行う必要があります。
- 4 「OK」を選択すると、各項目設定が保存反映されます。



[画面 83]

- 5 「ユーザー認証」ダイアログが表示された場合、管理者として登録済みの「ユーザーID」と「パスワード」を入力し、「ログイン」を選択します。



[画面 84]

メンテナンスツールは、管理者として登録されたユーザーのみログイン可能です。管理者として登録されていないユーザーは、ログインすることができません。

4.9 ユーザーメンテナンス

ログインするユーザーID(認証情報)について、登録、変更、パスワードリセット、有効化・無効化、削除、CSV インポート・エクスポートを行うことが可能です。

製品管理サイトからも同様に設定可能です。

また、CSV インポート・エクスポート操作は、コマンドラインからも実行可能です。オンプレミス版の場合は、高速版 CSV インポート・エクスポート処理ツールを利用可能です。

※CSV インポート・エクスポートに使用する CSV フォーマットについては、別紙「CSV フォーマットガイド」をご参照ください。

サービスの認証方法が Windows 認証かフェデレーション認証の場合、ログインするユーザーIDは登録不要です。

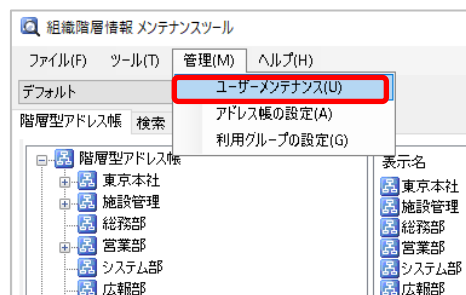
メンテナンスツールを使用するユーザーID は、管理者として登録する必要があります。

また、利用制限するユーザーID は個別に無効設定を登録する必要があります。

4.9.1 起動

ユーザーメンテナンスツールを起動します。

- 1 メンテナンスツールの「管理」メニューから「ユーザーメンテナンス」を選択します。



[画面 85]

- 2 「組織階層情報ユーザーメンテナンス」画面が開きます。初期状態ではサービス管理者のみ表示されます。

※サービス管理者を削除しないでください。



[画面 86]

3 各ボタンをクリックし、ログインするユーザーID を設定します。

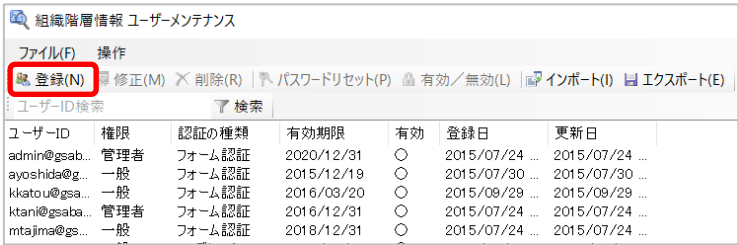
サービスの認証方法により、ユーザーメンテナンスの画面や機能が異なります。

Windows 認証かフェデレーション認証の場合、管理者となるユーザーID の登録、変更、削除のみ行うことが可能です。

4.9.2 登録

新しいユーザーID を登録します。

1 「組織階層情報ユーザーメンテナンス」画面から、「登録」を選択します。



[画面 87]

2 「新しいユーザー」画面が開くので、各項目に必要な情報を入力します。

- 各項目の説明
 - ・ ユーザーID
ユーザーの ID(電子メールアドレス)を入力します。(最大半角 100 文字)
 - ・ パスワード
任意のパスワードを入力します。
※「"」「¥」の記号はパスワードに利用できません。
 - ・ パスワードの確認
確認のため、再度パスワードを入力します。
 - ・ 管理者として登録する
メンテナンスツールを実行するユーザーID のみチェックをオンにします。
管理者ではないユーザーID は、メンテナンスツールにログインできません。
 - ・ 認証の種類
利用する認証方式を選択します。
※ここではフォーム認証を選択します。
 - ・ 有効期限
ユーザーID の有効期限を入力します。期限を超過したユーザーID はどのサービスにもログインできません。

- ・ 利用許可

サービスを利用可能なユーザーID は、チェックをオンにします。
 チェックがオフのユーザーID は、利用できません。

[画面 88]

- 3 「作成」を選択し、ユーザーID を登録します。

4.9.3 修正

ユーザーID のプロパティを変更します。

- 1 「組織階層情報ユーザーメンテナンス」画面から、任意のユーザーID を右クリックし、「修正」を選択します。

ユーザーID	権限	認証の種類	有効期限	有効	登録日	更新日
admin@gsab...	管理者	フォーム認証	2020/12/31	○	2015/07/24 ...	2015/07/24 ...
ayoshida@g...	一般	フォーム認証	2015/12/19	○	2015/07/30 ...	2015/07/30 ...
kkatou@g...	一般	フォーム認証	2016/03/20	○	2015/09/29 ...	2015/09/29 ...
ktani@g...	管理者	フォーム認証	2016/12/31	○	2015/07/24 ...	2015/07/24 ...
mtajima@g...	一般	フォーム認証	2018/12/31	○	2015/07/24 ...	2015/07/24 ...
myoshida@g...	一般	フェデレーション	2015/11/29	○	2015/07/30 ...	2015/07/30 ...
nfujikawa@g...	一般	フォーム認証	2015/08/31	×	2015/07/24 ...	2015/07/24 ...
Nikitahara@g...	登録(I)		2021/08/29	○	2016/07/29 ...	2016/07/29 ...
nyoshida@g...	修正(M)		2015/11/25	○	2015/07/30 ...	2015/07/30 ...
syoneda@g...	削除(R)		2016/12/31	○	2015/07/24 ...	2015/07/24 ...
tyasuda@g...	パスワードリセット(P)		2020/12/31	×	2015/07/24 ...	2015/07/24 ...
ynagata@g...			2016/12/20	○	2015/07/24 ...	2015/07/24 ...
yogino@g...	有効/無効(L)		2020/05/18	○	2016/04/18 ...	2016/04/18 ...
yyasuda@g...	一般	フォーム認証	2020/12/31	○	2016/10/05 ...	2016/10/05 ...

[画面 89]

2 「プロパティ」画面が開くので、各項目に必要な情報を入力します。

※認証方式により、表示される設定項目が異なります。

- 各項目の説明

- ・ 管理者として登録する

メンテナンスツールを実行するユーザーID のみチェックをオンにします。

管理者ではないユーザーID は、メンテナンスツールにログインできません。

- ・ 認証の種類

利用する認証方式を選択します。

※ここではフォーム認証を選択します。

- ・ 有効期限

ユーザーID の有効期限を入力します。期限を超過したユーザーID はどのサービスにもログインできません。

- ・ 有効

サービスを利用可能なユーザーID は、チェックをオンにします。

チェックがオフのユーザーID は、利用できません。



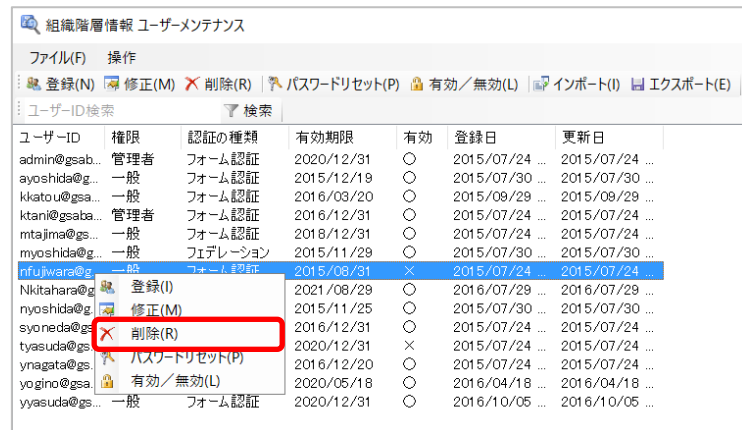
[画面 90]

3 「OK」を選択し、ユーザーID のプロパティを更新します。

4.9.4 削除

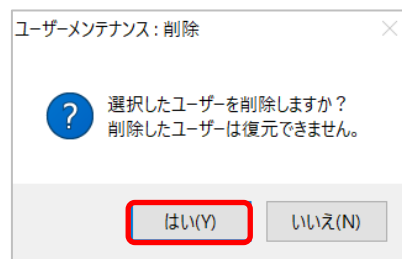
ユーザーID を削除します。

- 1 「組織階層情報ユーザーメンテナンス」画面から、任意のユーザーID を右クリックし、「削除」を選択します。



[画面 91]

- 2 削除確認メッセージが表示されるので「はい」を選択し、ユーザーID を削除します。

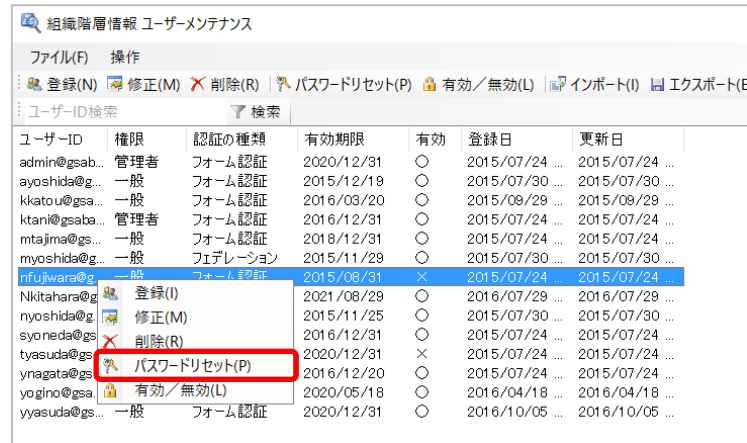


[画面 92]

4.9.5 パスワードリセット

ユーザーID のパスワードをリセットします。

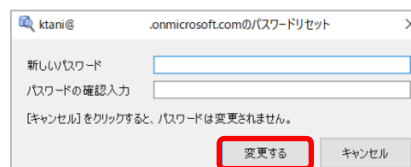
- 1 「組織階層情報ユーザーメンテナンス」画面から、任意のユーザーID を右クリックし、「パスワードリセット」を選択します。



[画面 93]

- 2 「パスワードリセット」画面が開くので、各項目に必要な情報を入力します。

- 各項目の説明
 - ・ 新しいパスワード
任意のパスワードを入力します。
 - ・ パスワードの確認入力
確認のために、再度パスワードを入力します。



[画面 94]

- 3 「変更する」を選択し、パスワードを変更します。

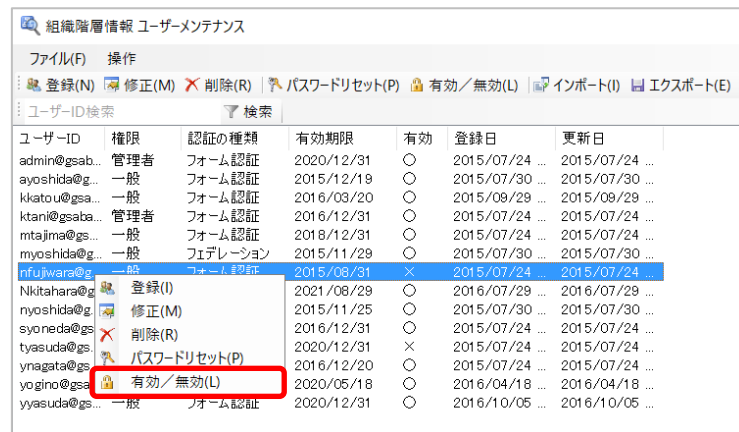
「"」「¥」の記号はパスワードに利用できません。

4.9.6 有効/無効

任意のユーザーID のログインを制限(無効化)します。

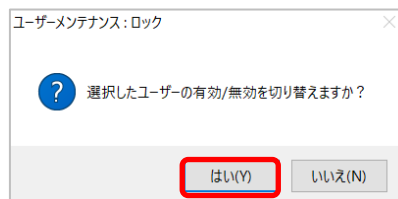
無効化されたユーザーID では、どのサービスにもログインできません。

- 1 「組織階層情報ユーザーメンテナンス」画面を開きます。
- 2 任意のユーザーID を右クリックし、「有効/無効」を選択します。



[画面 95]

- 3 「ユーザーメンテナンス：ロック」画面が開くので「はい」を選択し、ユーザーID の有効/無効を切り替えます。



[画面 96]

4.9.7 CSV に関する機能

CSV 形式のファイルによるインポートやエクスポートを行うことで、ユーザーID 情報を一括で登録、更新、削除を行うことが可能です。

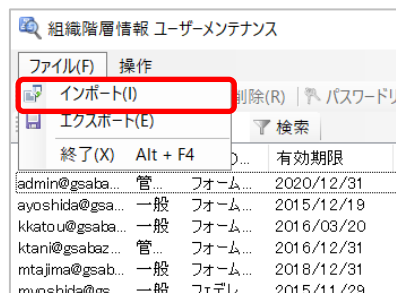
インポート・エクスポート機能は、サービスの認証方法が「フォーム認証」の場合のみ使用可能です。

※CSV インポート・エクスポートの CSV フォーマットについては、別紙「CSV フォーマットガイド」をご参照ください。

(1) ユーザーID 情報インポート

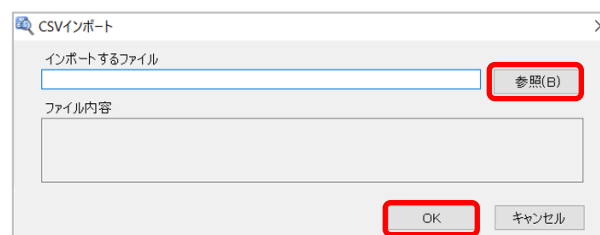
ユーザーID 情報の登録・更新・削除操作を、CSV 形式のファイルからインポートします。

- 1 「ファイル」メニューから「インポート」を選択します。



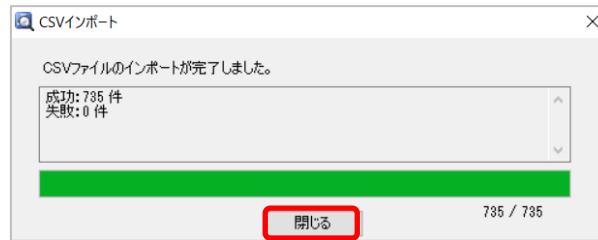
[画面 97]

- 2 「CSV インポート」画面が開くので、「参照」を選択します。
- 3 インポートする CSV ファイルを選択し、「開く」を選択します。
- 4 対象のファイルパスが入力されるので「OK」を選択し、CSV ファイルをインポートします。



[画面 98]

- 5 成功・失敗件数を確認し、「閉じる」を選択します。



[画面 99]

CSV ファイルの処理でエラーになった場合は、該当の行数とエラー内容をエラーログに出力し、次の行から処理が続行されます。

(2) ユーザーID 情報エクスポート

登録されているユーザーID 情報を、CSV 形式ファイルとして保存するには、以下の手順を実施します。

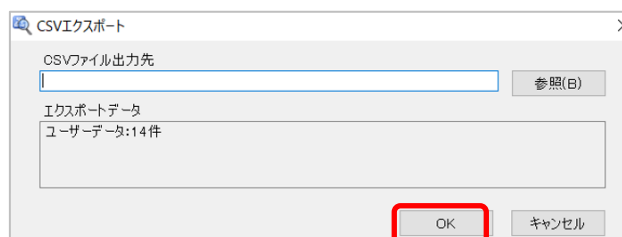
エクスポートした CSV ファイルは、複数アドレス帳の利用可能ユーザーを登録する際の CSV インポートに利用できます。手順は「(2)利用ユーザー情報 CSV インポート」をご参照ください。

- 1 「ファイル」メニューから「エクスポート」を選択します。



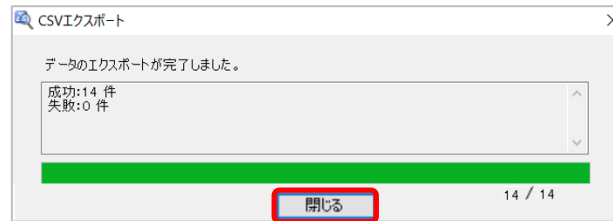
[画面 100]

- 2 「CSV エクスポート」画面が開くので、「参照」を選択します。
- 3 CSV ファイルをエクスポートする場所を選択し、「保存」を選択します。
- 4 対象のファイルパスが入力されるので「OK」を選択し、ユーザーID 情報の CSV ファイルをエクスポートします。



[画面 101]

- 5 成功・失敗件数を確認し、「閉じる」を選択します。
- 6 指定した場所に CSV ファイルが作成されたことを確認します。



[画面 102]

CSV ファイルの処理でエラーになった場合は、該当の行数とエラー内容をエラーログに出力し、次の行から処理が続行されます。

4.9.8 コマンド実行

ユーザーID の CSV インポート・エクスポートはコマンドプロンプトから実行します。

ユーザーID の設定には、複数アドレス帳は使用しません。

接続設定については、「(1)接続設定」をご参照ください。

(1) インポート実行コマンド

インポートエクスポートツールの設定ファイルに設定後、以下の手順を実施します。

- 1 コマンドプロンプトを起動します。
- 2 以下のコマンドを入力し、実行します。
 - コマンド


```
cd C:\Program Files (x86)\bbsystem\HierarchicalAddressBookMaintenanceTool
```
- 3 以下のコマンドを入力し、実行します。
 - インポートコマンド

※コマンドは一行で入力します。

 - ・ コンソール表示ありの場合


```
HABImportExportTool.exe /UI /F <CSV ファイルパス> /U <ユーザーID> /P <パスワード>
```
 - ・ コンソール表示なしの場合


```
HABImportExportToolNoConsole.exe /UI /F <CSV ファイルパス> /U <ユーザーID> /P <パスワード>
```

* 入力例

- ・ コンソール表示ありの場合

```
HABImportExportTool.exe /UI /F C:¥data¥Import001.csv /U testuser@example.com
/P password
```

- ・ コンソール表示なしの場合

```
HABImportExportToolNoConsole.exe /UI /F C:¥data¥Import001.csv /U
testuser@example.com /P password
```

- 4 以下のコマンドを入力し、実行します。戻り値を確認します。

- コマンド

```
echo %ERRORLEVEL%
```

戻り値	説明
0	インポートの実行に成功しました。
1	実行時にエラーが発生しています。 ※エラーの詳細は、出力されたログの内容を確認してください。

(2) エクスポート実行コマンド

設定ファイルを確認後、以下の手順を実施します。

- 1 コマンドプロンプトを起動します。

- 2 以下のコマンドを実行します。

- コマンド

```
cd C:¥Program Files (x86)¥bbsystem¥HierarchicalAddressBookMaintenanceTool
```

- 3 以下のコマンドを実行します。

- エクスポートコマンド

- ・ コンソール表示ありの場合

```
HABImportExportTool.exe /UE /F <CSV ファイルパス> /U <ユーザーID> /P <パス
ワード>
```

- ・ コンソール表示なしの場合

```
HABImportExportToolNoConsole.exe /UE /F <CSV ファイルパス> /U <ユーザーID>
/P <パスワード>
```

* 入力例

- ・ コンソール表示ありの場合

```
HABImportExportTool.exe /UE /F C:¥data¥Export001.csv /U
testuser@example.com /P password
```

- ・ コンソール表示なしの場合

```
HABImportExportToolNoConsole.exe /UE /F C:¥data¥Export001.csv /U  
testuser@example.com /P password
```

4 以下のコマンドを入力し、実行します。戻り値を確認します。

- コマンド
echo %ERRORLEVEL%

戻り値	説明
0	エクスポートの実行に成功しました。
1	実行時にエラーが発生しています。 ※エラーの詳細は、出力されたログの内容を確認してください。

4.9.9 エラーログ出力

メンテナンスツールでのインポート・エクスポート中にエラーが発生した場合、以下のログファイルにエラーメッセージが出力されます。

- 出力場所 1(メンテナンスツールより実行した場合)
※AppData フォルダは、既定の設定では隠しフォルダになっています。
C:¥Users¥<User>¥AppData¥Roaming¥BBS.HierarchicalAddressBookMaintenanceTool¥CSVImportExport.log
- 出力場所 2(コマンドラインより実行した場合)
C:¥Logs¥bbshabcsv.log

5. 削除

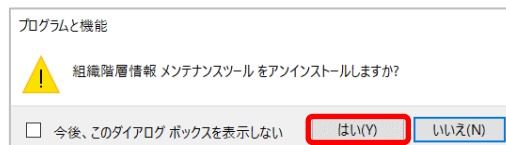
本章では、メンテナンスツールの削除(アンインストール)の手順について説明します。

- 1 コントロールパネルを開き、「プログラムのアンインストール」もしくは「プログラムと機能」を開きます。
- 2 インストールされたプログラムの一覧から「組織階層情報メンテナンスツール」を右クリックし、「アンインストール」を選択します。



[画面 103]

- 3 アンインストール確認メッセージが表示されるので、「はい」を選択します。



[画面 104]

- 4 アンインストールが完了したことを確認し、コントロールパネル画面を閉じます。

以上

Appendices

1. 入力可能文字数一覧

設定箇所	項目名	入力可能文字数	入力文字種 補足
部署編集画面	表示名(※必須入力)	最大 255 文字	-
	説明	最大 255 文字	-
	表示順(0～999999)	-	半角数字のみ入力可
アドレス編集画面	姓、名、姓(フリガナ)、名(フリガナ)、 表示名(フリガナ)	各最大 255 文字	すべての項目にてひらが な、カタカナ (全/半)、漢 字、英数字(全/半)が使用可 能
	エイリアス	最大 300 文字	-
	表示名(※必須入力)	最大 255 文字	-
	電子メールアドレス(※必須入力)	最大 300 文字	半角英数字、記号のみ入力 可
	市区町村、電話、役職、会社名、部署、 事業所	最大 255 文字	-
	カスタム項目(項目 1～項目 15)	最大 255 文字	-
	表示順(0～999999)	-	半角数字のみ入力可
カスタム項目の設 定	項目名	最大 25 文字	-
アドレス帳の設定	アドレス帳コード	最大半角 20 文字	半角英数字のみ入力可
	アドレス帳名	最大 70 文字	-
ユーザーメンテナ ンス	ユーザーID(電子メールアドレス)	最大 100 文字	半角英数字、記号のみ入力 可
利用グループの設 定	グループ名	最大 50 文字	-

2. コマンドオプション(引数)一覧

● 階層情報・アドレス情報の CSV インポート・エクスポート

引数	説明
/I	階層・アドレス情報のインポートを実行する場合に指定します。
/E	階層・アドレス情報のエクスポートを実行する場合に指定します。
/UI	ログインユーザー情報のインポートを実行する場合に指定します。
/UE	ログインユーザー情報のエクスポートを実行する場合に指定します。
/DROP	階層・アドレス情報の一括削除を実行する場合に指定します。
/F	インポートの場合、読み込む CSV ファイルパスを指定します。 エクスポート場合、出力する CSV ファイルパスを指定します。
/U	ユーザーID を指定します。 フォーム認証の場合のみ指定します。
/P	パスワードを指定します。 フォーム認証の場合のみ指定します。
/S	サービス URL を指定します。(省略可) 省略した場合は、設定ファイル(HABImportExportTool.exe.config)で設定した内容を使用します。
/L	ログファイルの出力先を指定します。(省略可) 省略した場合は、設定ファイル(HABImportExportTool.exe.config)で設定した内容を使用します。
/A	サービスの認証方法を指定します。(省略可) 1:フォーム認証、2:Windows 認証 省略した場合は、設定ファイル(HABImportExportTool.exe.config)で設定した内容を使用します。
/addressbookcode	複数アドレス帳の判別コードを指定します。(省略可) エクスポート時に省略した場合は、すべてのアドレス帳データをエクスポートします。 CSV ファイル内に<AddressBookCode>列があれば、該当のアドレス帳のみ使用します。 その場合は、引数を指定するとエラーになります。 ※引数 (/DROP) が指定された場合、必須項目となります。 ※「デフォルト」アドレス帳の判別コードは「00000000000000000000」です。

● 複数アドレス帳の公開/非公開切り替え

引数	説明
/N	アドレス帳を公開設定にする場合に指定します。
/F	アドレス帳を非公開設定にする場合に指定します。

引数	説明
/C	アドレス帳の判別コードを指定します。 ※「デフォルト」アドレス帳の判別コードは「00000000000000000000」です。
/U	ユーザーID を指定します。 フォーム認証の場合のみ指定します。
/P	パスワードを指定します。 フォーム認証の場合のみ指定します。
/S	サービス URL を指定します。(省略可) 省略した場合は、設定ファイル(HABAddressBookOnOffChgTool.exe.config)で設定した内容を使用します。
/L	ログファイルの出力先を指定します。(省略可) 省略した場合は、設定ファイル(HABAddressBookOnOffChgTool.exe.config)で設定した内容を使用します。
/A	サービスの認証方法を指定します。(省略可) 1:フォーム認証、2:Windows 認証 省略した場合は、設定ファイル(HABAddressBookOnOffChgTool.exe.config)で設定した内容を使用します。

● 利用グループ情報の CSV インポート・エクスポート

引数	説明
/I	利用グループ情報のインポートを実行する場合に指定します。
/E	利用グループ情報のエクスポートを実行する場合に指定します。
/UI	利用グループに紐づくユーザー情報のインポートを実行する場合に指定します。
/UE	利用グループに紐づくユーザー情報のエクスポートを実行する場合に指定します。
/S	サービス URL を指定します。(省略可) 省略した場合は、設定ファイル(HABAddressBokGroupImportTool.exe.config)で設定した内容を使用します。
/A	サービスの認証方法を指定します。(省略可) 1:フォーム認証、2:Windows 認証 省略した場合は、設定ファイル(HABAddressBokGroupImportTool.exe.config)で設定した内容を使用します。
/U	ユーザーID を指定します。 フォーム認証の場合のみ指定します。
/P	パスワードを指定します。 フォーム認証の場合のみ指定します。
/G	エクスポートするグループ名を指定します。 指定されない場合、全利用グループを対象とします。

引数	説明
/F	インポートの場合、読み込む CSV ファイルパスを指定します。 エクスポートの場合、出力する CSV ファイルパスを指定します。
/L	ログファイルの出力先を指定します。(省略可) 省略した場合は、設定ファイル(HABAddressBokGroupImportTool.exe.config)で設定した内容を使用します。